

【少子高齢化・人口減少】

- ・問題提起

＜総論＞

- ・京都府の人口の推移
- ・京都府の人口の将来推計
- ・京都府の地域別の将来人口推計
- ・京都府の高齢化の状況
- ・京都府の地域別の高齢化の状況

＜自然増減＞

- ・全国・京都府の合計特殊出生率の推移
- ・京都府の出生数の推移
- ・子育て環境を巡る意識の違い

＜社会増減＞

- ・人口動態
- ・府内外国人居住者数の推移
- ・府内留学生数の推移
- ・府内留学生の就職率

＜社会への影響＞

- ・人口構造の変化
- ・年齢別の人口
- ・生産年齢人口の将来推計
- ・有効求人倍率の推移
- ・供給制約の深刻化
- ・国民一人当たりのGDP比較
- ・国民一人当たりの労働生産性の比較

【気候変動・新技術・国際情勢 他】

- ・気候変動のトレンド
- ・地球温暖化
- ・豪雨災害の増加
- ・世界のAI市場規模の予測値
- ・政府のAI関連予算の推移

- ・新たに資金調達を受けたAI企業数
- ・生成AIの利用状況
- ・半導体の種類と主要企業
- ・半導体の国別シェアと各国の支援措置
- ・国際情勢
- ・世界を魅了する京都

1

問題提起

【世界トレンド】

- 国連「世界人口推計（WPP2024）」（2024/07）

世界の人口は今後も増加を続けるが、多くの国で出生率の低下と平均寿命の延伸により、高齢化が急速に進行する。特に先進国および一部の新興国においては、人口減少と高齢化が同時に進む構造的変化が生じている。

- PwC「Megatrends（メガトレンド）」（2022/10）

人口動態の変化を世界の四つのメガトレンドの一つに位置付け。人口減少・高齢化が進行する国と人口増加により雇用の確保が困難な国が同時に発生することにより、必要なサービスの不足、各国間の能力のミスマッチの発生等を懸念。

- 世界経済フォーラム「Global Risks Report 2026」（2026/01）

短期的なグローバルリスクのTOP10には「社会の分断」があり、長期的にも社会の安定性に影響を与える重要なリスクとされている。人口構造の変化は、長期でも上位リスクの一つとして位置付けられている。

【日本トレンド】

- 経済財政諮問会議（十倉、中空、新浪、柳川）「人材希少社会における社会保障・教育政策の強化」（2025/5/26）

個々人の能力を最大限発揮できる社会づくりが人口減少下でも発展するために不可欠であると共に、外部環境変化に強い経済構造のベースともなると主張。

- 財政制度等審議会「激動の世界を見据えたあるべき財政運営」（2025/5/27）

(i)潜在成長率の低下、(ii)人口減少度合の地域差による地域間格差や地域サービスの低下及び(iii)社会保障の受益と負担のアンバランスの深刻化の懸念。対応策として、(i)労働生産性の向上や資本ストックの増強、技術革新等による全要素生産性の向上、(ii)各地域が特色を活かして、安心して豊かな地域社会の実現を図ること及び(iii)持続可能な社会保障制度の構築を挙げる。

- 中川雅之 日本大学経済学部教授「パレート劣化をもたらす政策への注目」（2025/2）

パレート最適政策から、全員の効用が下がるパレート劣化政策への転換。効用の総量の減少幅を少なくするとともに、公正な損失分担に配慮する必要があると主張。

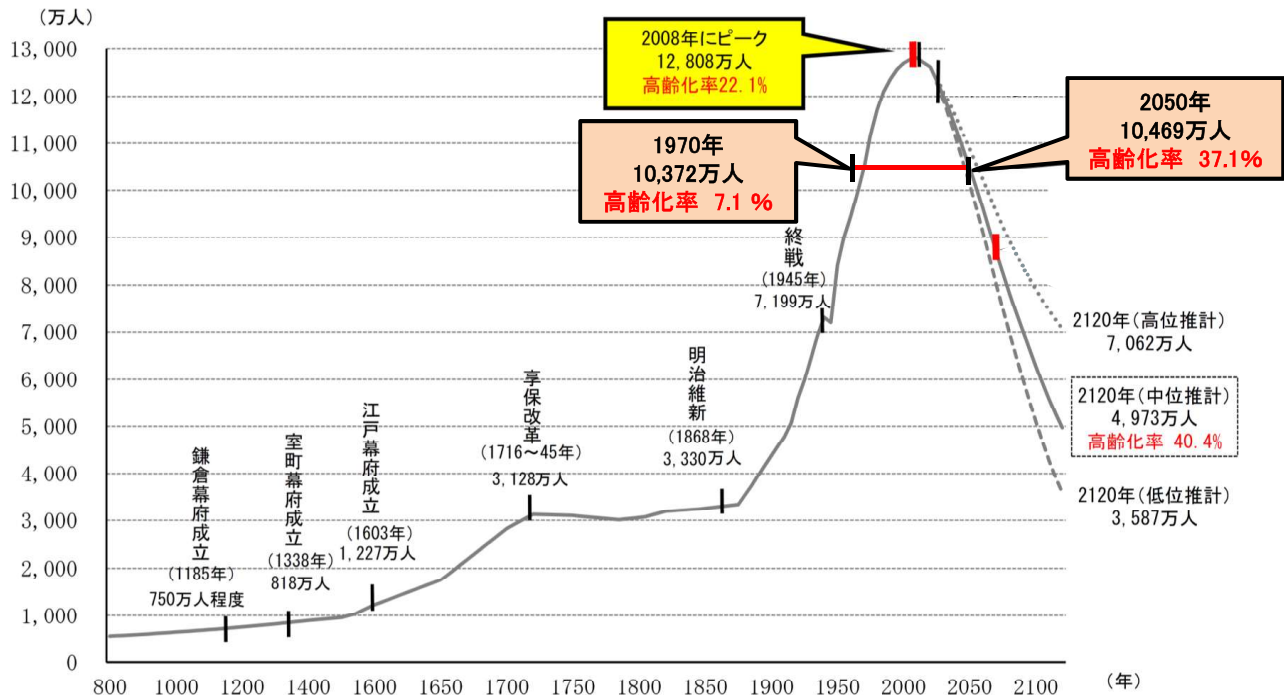
- 三菱総合研究所（世界・日本経済展望）（2026/02）

日本では、人口減少と高齢化の進展により労働力の供給制約が強まっている。これに対応するためには、デジタル技術やAIの活用による生産性向上が不可欠である。

2

中長期的な人口動態

- 日本の総人口は明治維新後に急増し、**2008年にピークに急減**。
- 人口が同規模（約1億人）の2050年と1970年の**高齢化率**を比較すると、**2050年37.1%**である一方、**1970年は7.1%**であり、年齢構成は大きく異なる。



（出典）国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」（1974年）。

（注）ただし、1920年からは、総務省「国勢調査」、「人口推計年報」、「平成17年及び22年国勢調査結果による補間補正人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」により追加。値は日本の総人口（外国人含む）。

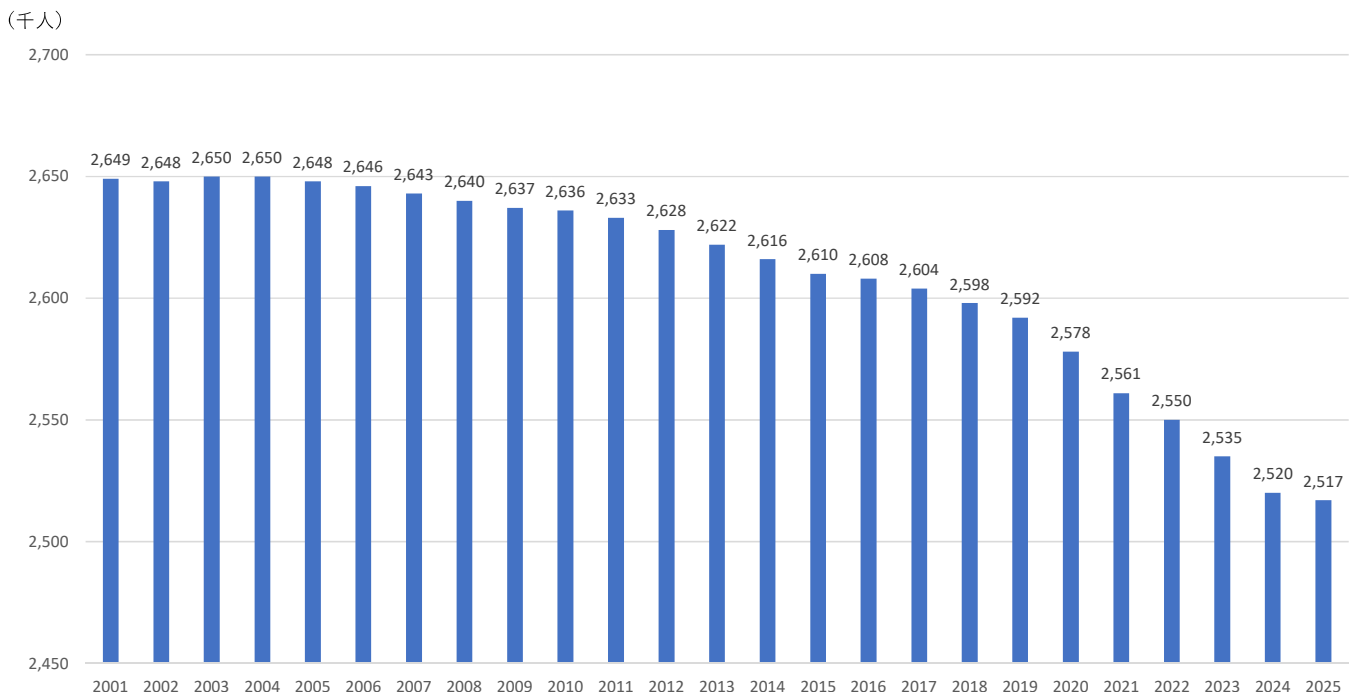
（出典）第26回国土審議会（2023年7月4日） 資料4-3_国土形成計画（全国計画）関連データ集

3

京都府の人口の推移

- 京都府の総人口は2004（平成16）年の**265万人をピークに減少傾向**。2025（令和7）年で約251万人。

総人口の推移（京都府）

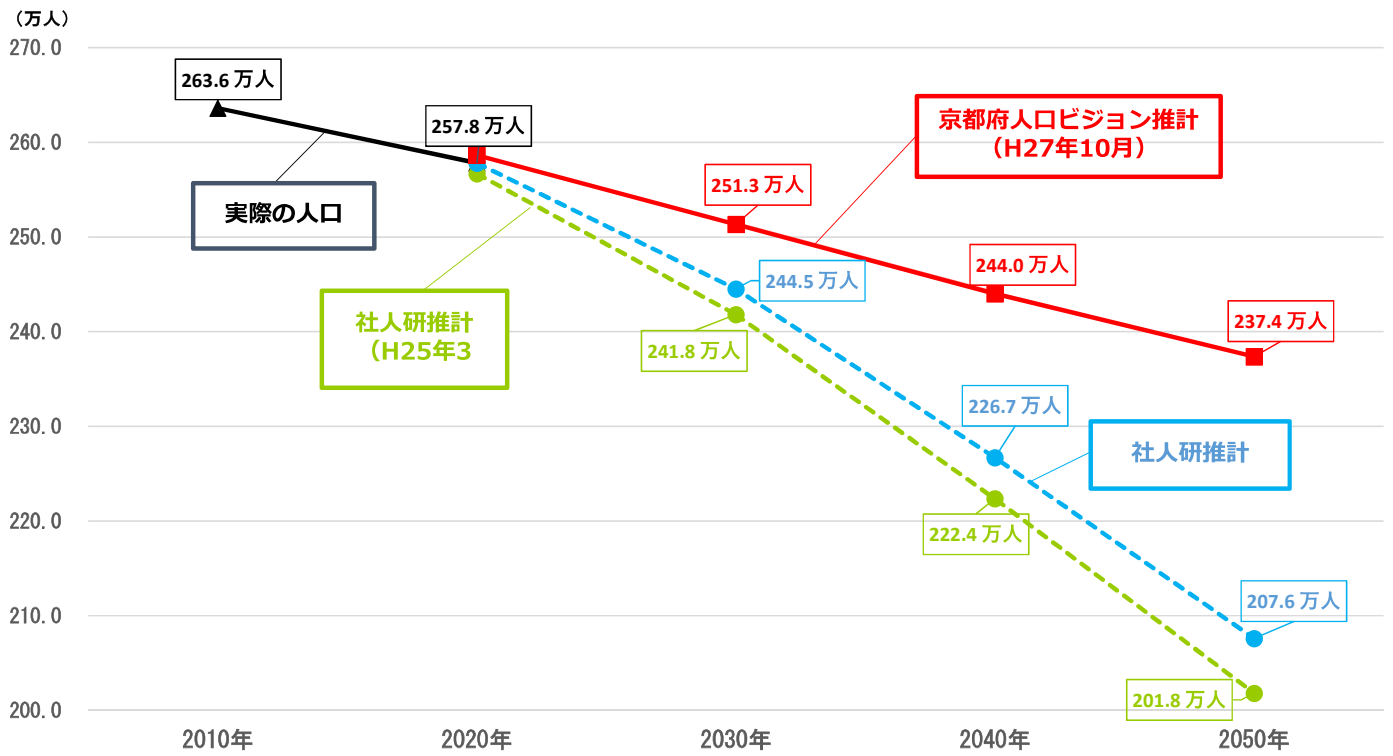


出典：京都府推計人口

URL：<https://www.pref.kyoto.jp/tokei/monthly/suikeijinkou/index.html>

4

京都府の人口の将来推計



京都府人口ビジョンと社人研推計に違いが生じている理由

- ① 想定する合計特殊出生率が違う
⇒ 【人口ビジョン】2030年に1.80、2040年以降2.07（国の長期ビジョンと同様）、【社人研推計】実際の出生率を基に推計
- ② 想定する社会移動数が違う
⇒ 【人口ビジョン】2030年に社会減が解消、2040年以降は転入増が続く、【社人研推計】実際の転出入数を基に推計

5

京都府の地域別の将来人口推計

- 京都府の地域別の将来人口推計は、**2025年と2050年を比較すると約44万人（▲17.6%）が減少**する。
- 特に顕著なのが、南丹以北の地域であり、**丹後地域は▲40.4%、南丹地域は▲30.5%、中丹地域が▲24.4%**と減少幅が大きい。

(単位：人)

	2025年	将来推計					2025年比較	
		2030年	2035年	2040年	2045年	2050年		
京都府	2,518,390	2,445,192	2,361,161	2,267,021	2,170,369	2,075,975	▲ 442,415	(▲17.6%)
京都市	1,442,014	1,411,864	1,375,454	1,331,683	1,285,743	1,240,645	▲ 201,369	(▲14.0%)
山城地域	689,617	669,557	645,172	618,242	590,686	563,673	▲ 125,944	(▲18.3%)
南丹地域	124,158	117,052	109,528	101,621	93,751	86,274	▲ 37,884	(▲30.5%)
中丹地域	180,638	171,843	163,022	154,182	145,255	136,498	▲ 44,140	(▲24.4%)
丹後地域	81,963	74,876	67,985	61,293	54,934	48,885	▲ 33,078	(▲40.4%)

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」(結果表1 総人口および指数)

URL: <https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson23/t-page.asp>

6

京都府の高齢化の状況・京都府の地域別の高齢化の状況

○ 75歳以上の人口は今後も増え続け、**2050年には京都府の人口の22.7%が75歳以上の後期高齢者となる。**

(単位：人)

	2025年	将来推計					2025年比較	
		2030年	2035年	2040年	2045年	2050年		
京都府の人口	2,518,390	2,445,192	2,361,161	2,267,021	2,170,369	2,075,975	▲ 442,415	▲ 17.6%
うち75歳以上 (人口割合)	396,746 15.8%	470,292 19.2%	481,864 20.4%	465,411 20.5%	458,770 21.1%	470,729 22.7%	+ 73,983	+ 18.6%

	2025年	将来推計					2025年比較	
		2030年	2035年	2040年	2045年	2050年		
京都市域 人口	1,442,014	1,411,864	1,375,454	1,331,683	1,285,743	1,240,645	▲ 201,369	▲ 14.0%
うち75歳以上 (人口割合)	259,159 18.0%	263,859 18.7%	256,073 18.6%	257,249 19.3%	269,518 21.0%	294,532 23.7%	+ 35,373	+ 13.6%
山城地域 人口	689,617	669,557	645,172	618,242	590,686	563,673	▲ 125,944	▲ 18.3%
うち75歳以上 (人口割合)	127,076 18.4%	132,401 19.8%	126,544 19.6%	122,442 19.8%	125,210 21.2%	138,001 24.5%	+ 10,925	+ 8.6%
南丹地域 人口	124,158	117,052	109,528	101,621	93,751	86,274	▲ 37,884	▲ 30.5%
うち75歳以上 (人口割合)	25,805 20.8%	27,511 23.5%	27,052 24.7%	25,980 25.6%	24,933 26.6%	24,992 29.0%	▲ 813	▲ 3.2%
中丹地域 人口	180,638	171,843	163,022	154,182	145,255	136,498	▲ 44,140	▲ 24.4%
うち75歳以上 (人口割合)	37,140 20.6%	37,066 21.6%	35,560 21.8%	33,892 22.0%	33,075 22.8%	34,749 25.5%	▲ 2,391	▲ 6.4%
丹後地域 人口	81,963	74,876	67,985	61,293	54,934	48,885	▲ 33,078	▲ 40.4%
うち75歳以上 (人口割合)	21,112 25.8%	21,027 28.1%	20,182 29.7%	19,207 31.3%	17,993 32.8%	17,513 35.8%	▲ 3,599	▲ 17.0%

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」(結果表2_3 年齢別人口および指数65歳以上人口)

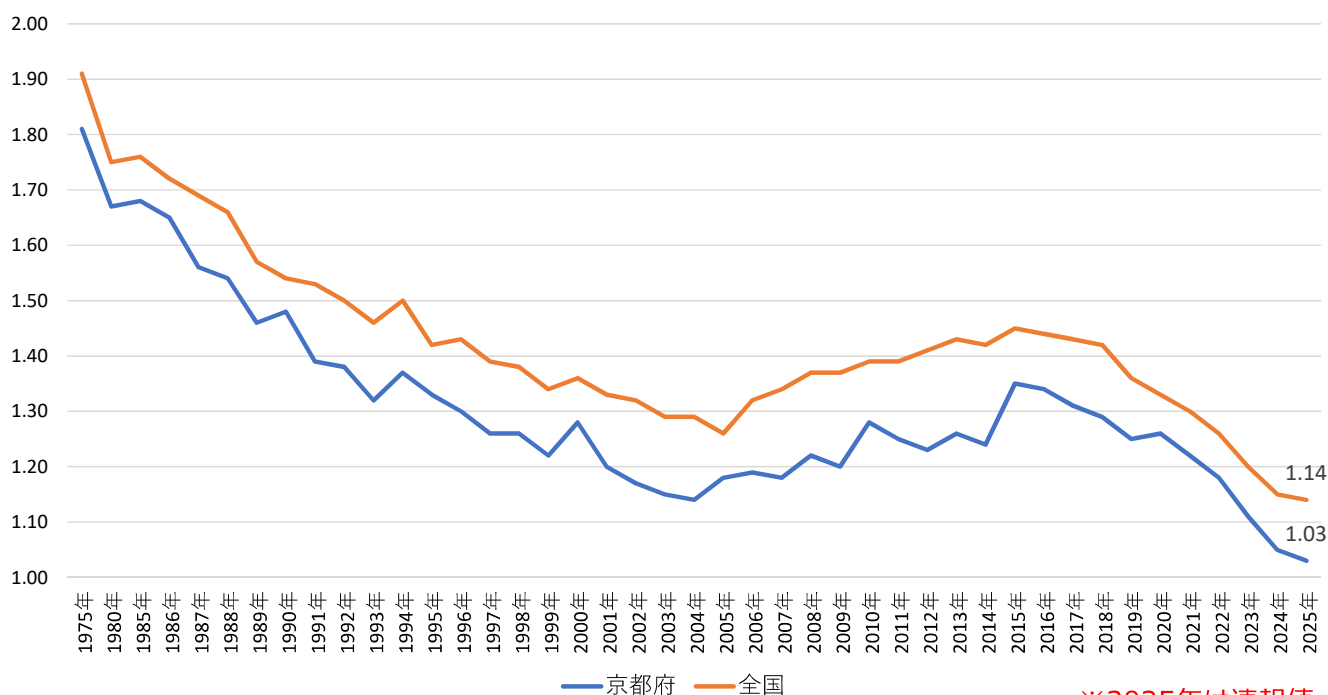
URL: <https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson23/t-page.asp>

7

全国・京都府の合計特殊出生率の推移

○ 京都府の合計特殊出生率は長期的に見て低下傾向であり、**全国平均を常に下回っている。**

合計特殊出生率の推移（京都府と全国との比較）



出典：厚生労働省 人口動態統計

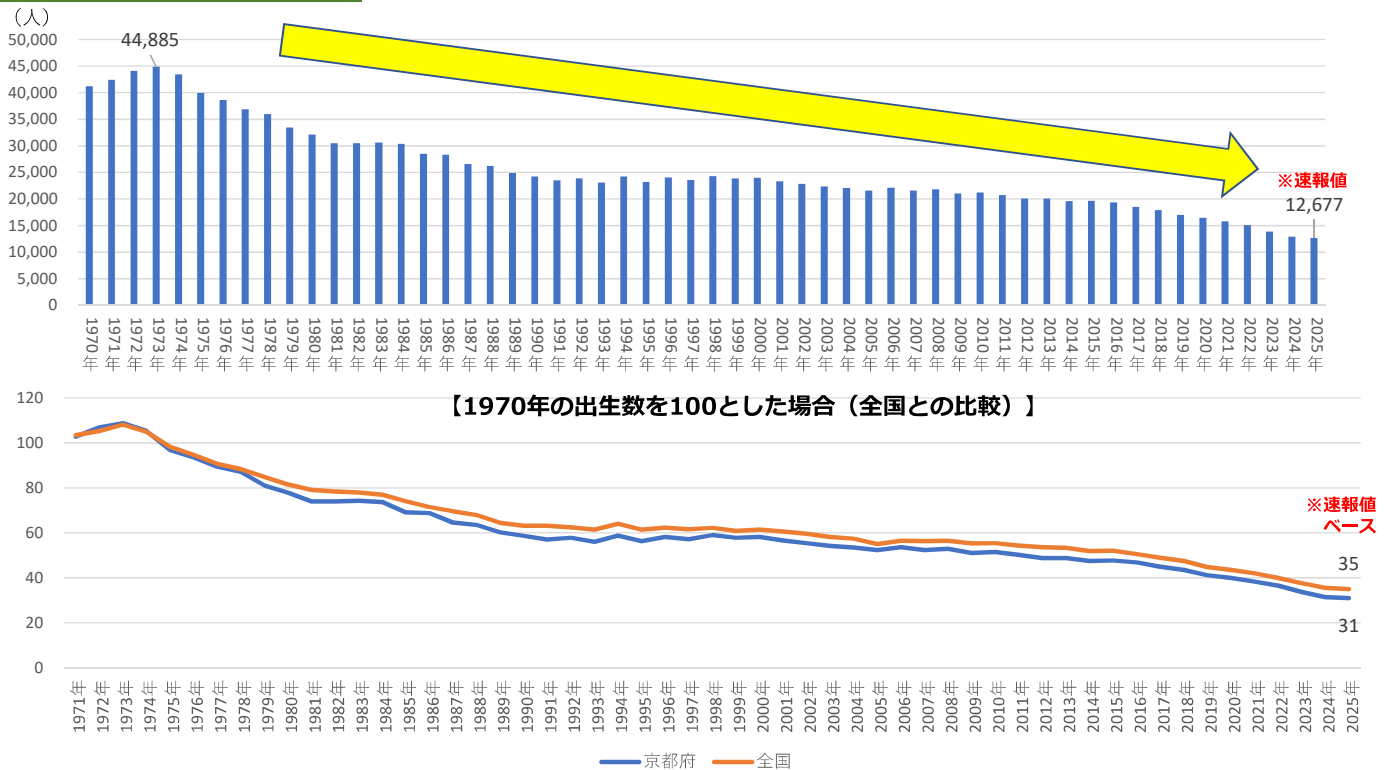
URL: <https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1a.html>

8

京都府の出生数の推移

- 京都府の出生数は、団塊ジュニア世代の1970年代から **3分の1に減少**。
- 全国と比較しても、**出生数の減少スピードが速い**。

出生数の推移（京都府）



出典：厚生労働省 人口動態統計

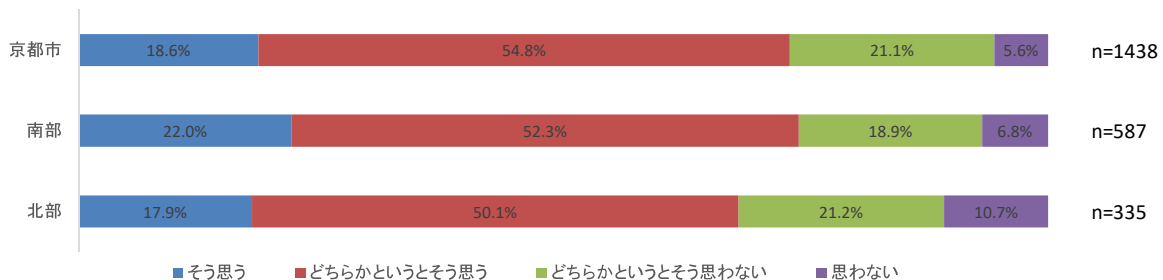
URL: <https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1a.html>

9

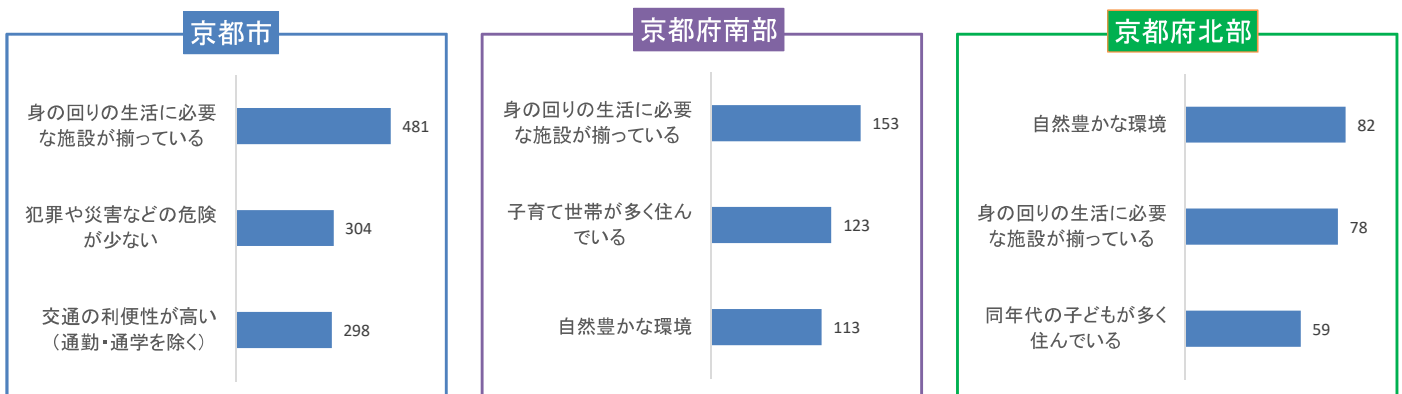
子育て環境を巡る意識の違い①

- 「子どもが育つのに良い環境」に対する認識は地域ごとに違いが見られる。

【お住いの地域は、子どもが育つのに良い環境だと思うか】



【子どもが育つのに良い環境とはどのような環境か（上位3項目）】

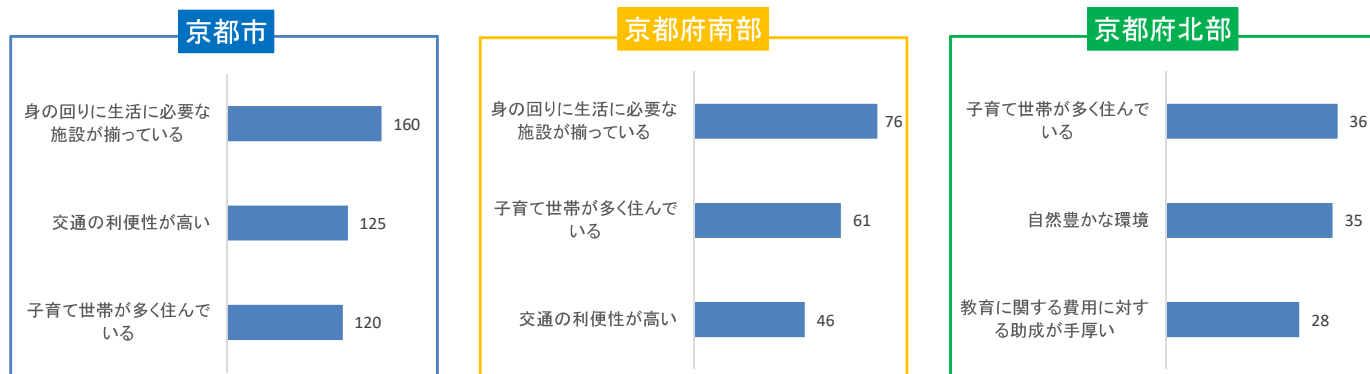


出典：「子育て環境日本一・京都」の推進に関する意識調査（京都府総合政策室）

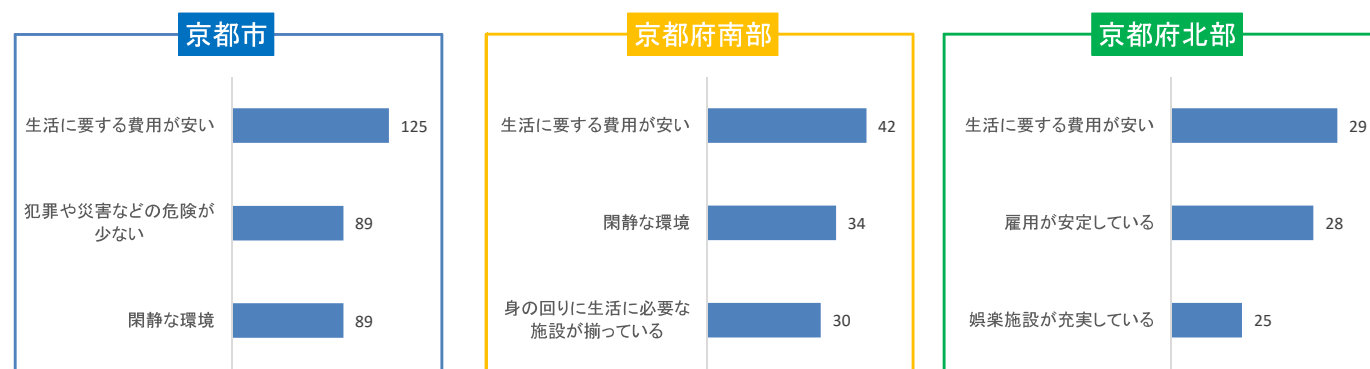
10

子育て環境を巡る意識の違い②

【子育てを巡る環境で良かったもの】



【子育てを巡る環境で悪くなったもの】



出典:「子育て環境日本一・京都」の推進に関する意識調査(京都府総合政策室)

11

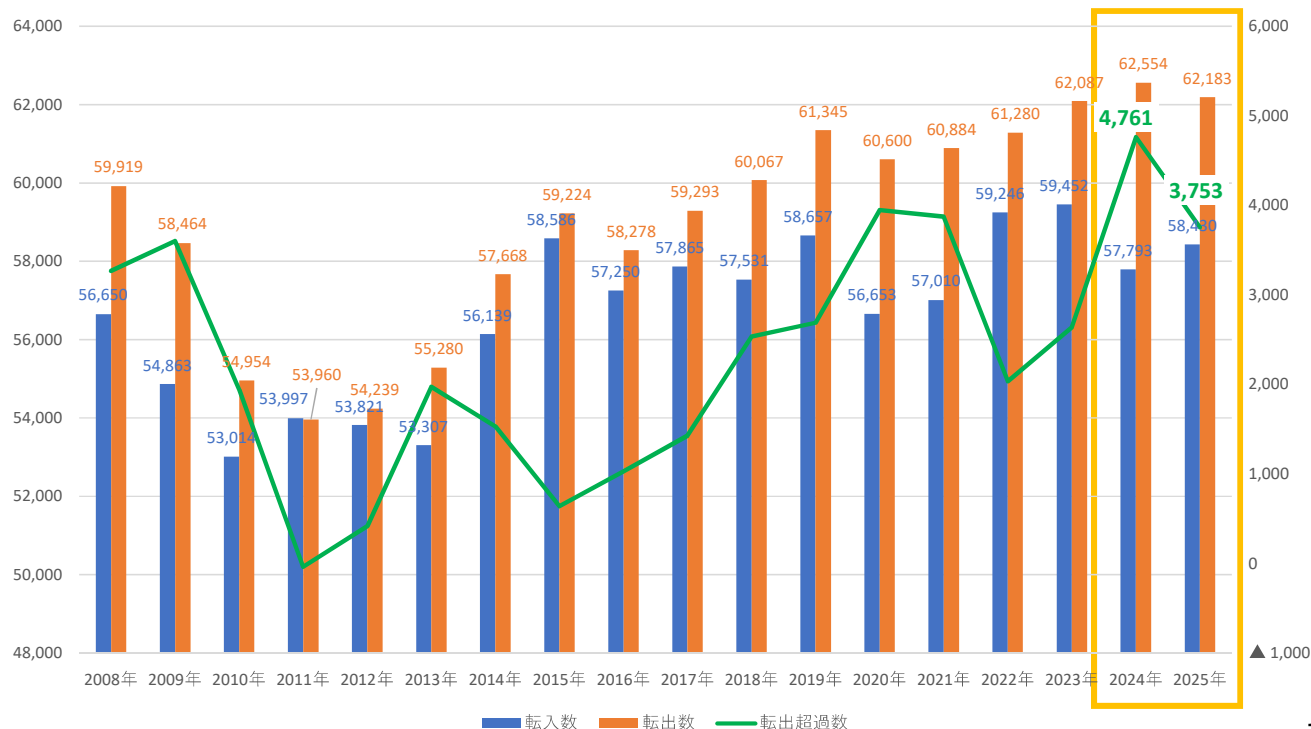
人口動態① (転出数・転入数)

転出・転入数、転出超過数の推移 (京都府)

(※) 2013年までは日本人移動者の集計。2014年から「日本人移動者」と外国人を含む「総数」の2種で集計

(棒グラフ: 転出者・転入者数 (人))

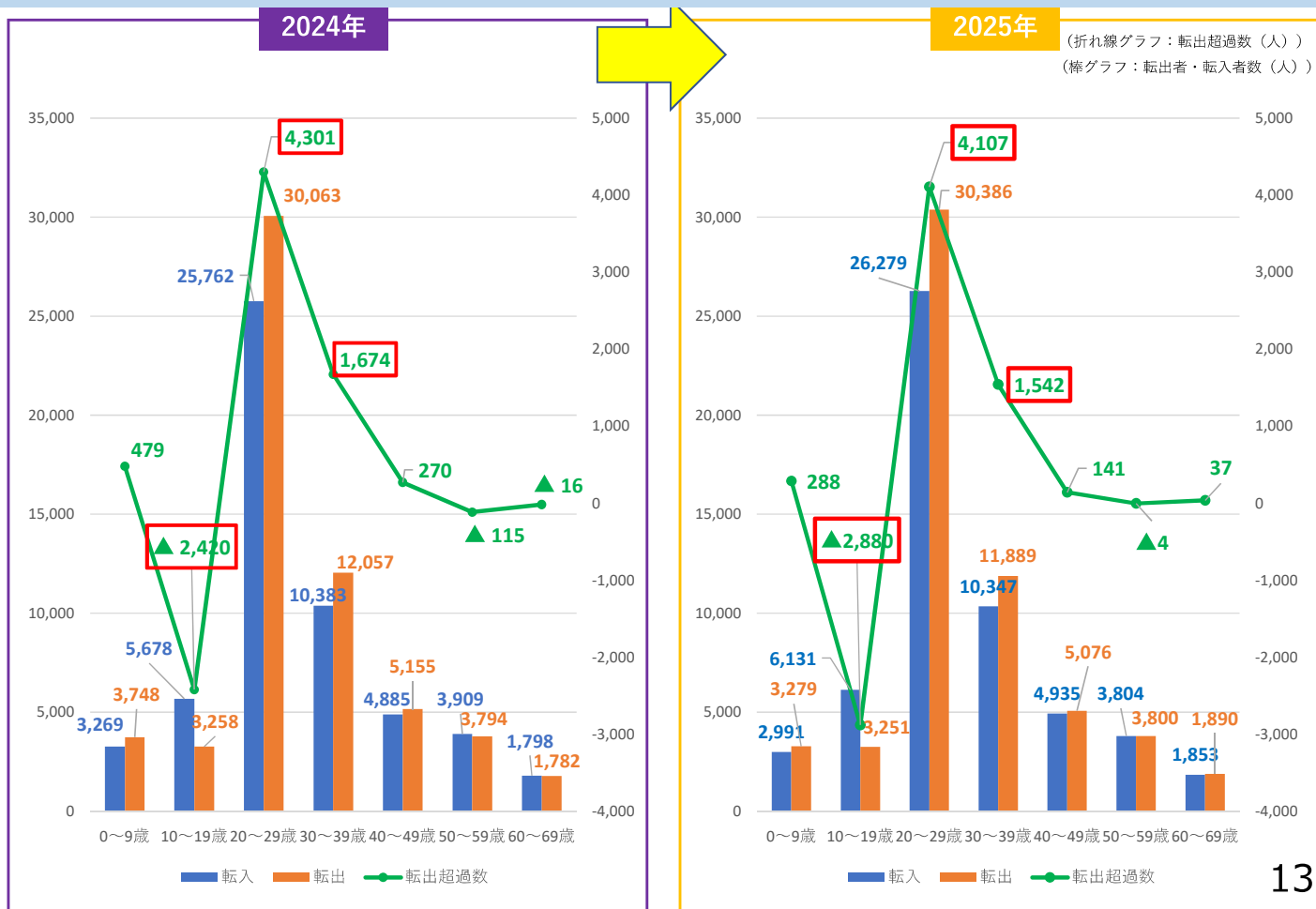
(折れ線グラフ: 転出超過数 (人))



(出典) 住民基本台帳人口移動報告

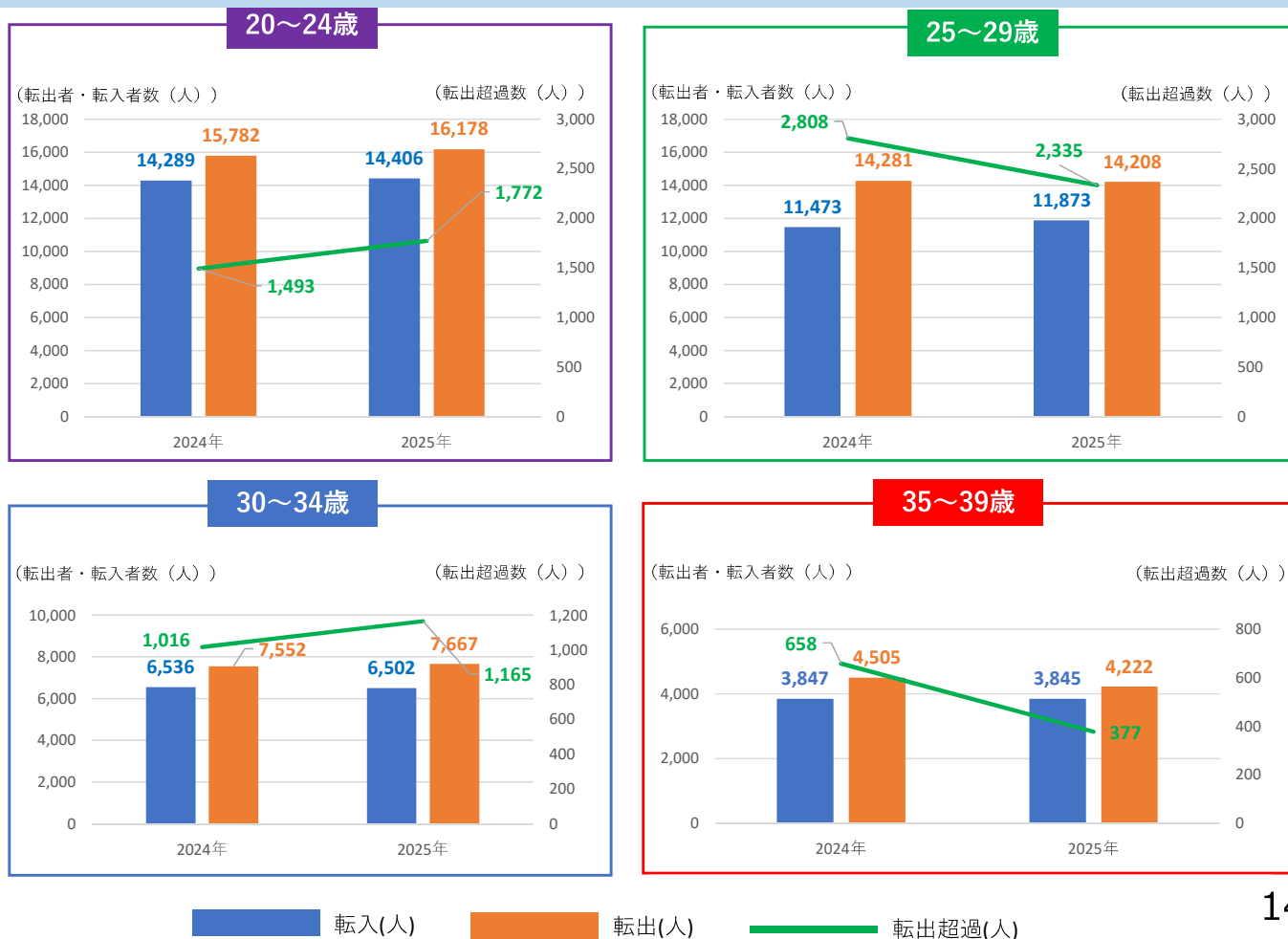
12

人口動態②（年齢別）



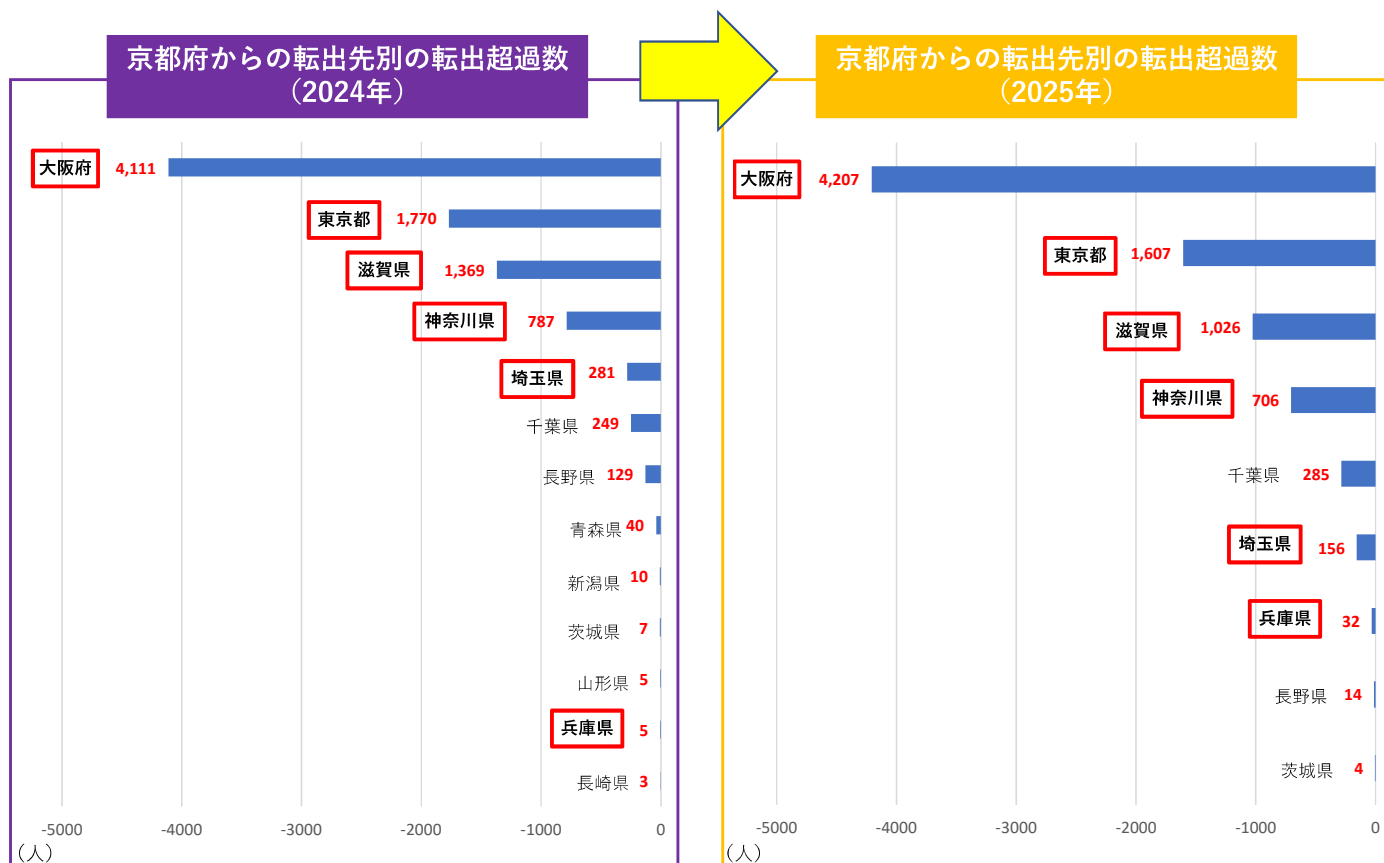
13

人口動態③（20代、30代）



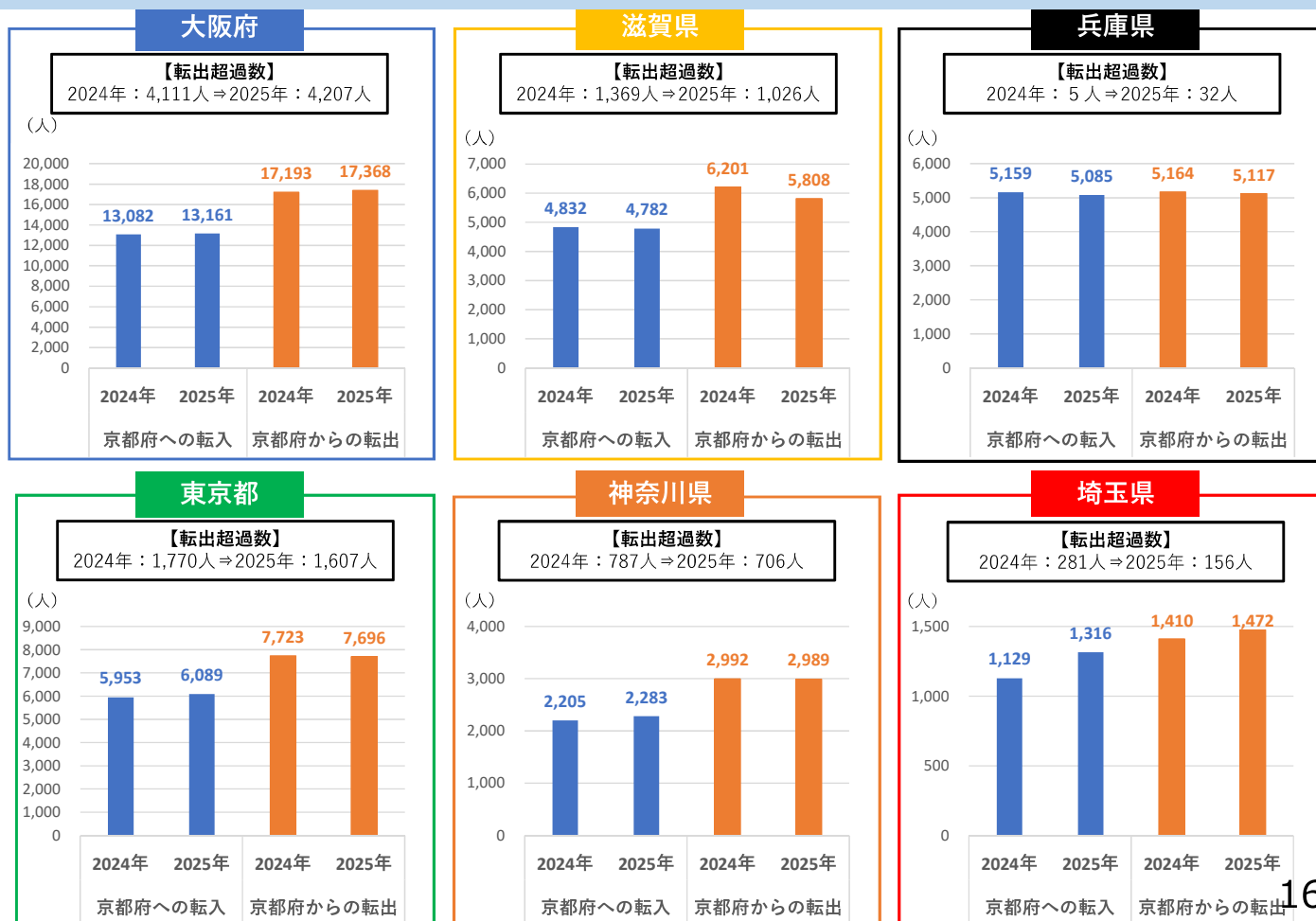
14

人口動態④（京都府からの転出先）



(出典) 住民基本台帳人口移動報告 15

人口動態⑤（都道府県別の転出・転入数）

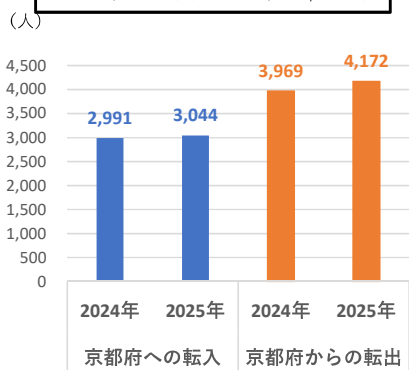


人口動態⑥（20～24歳の転出・転入数）

大阪府

【転出超過数】

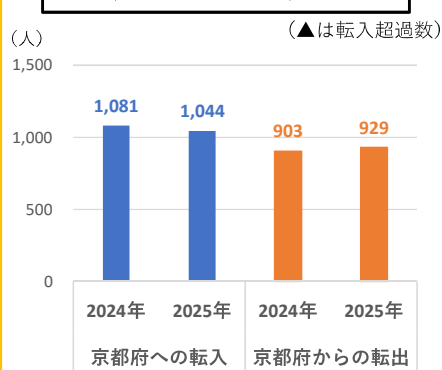
2024年：978人⇒2025年：1,128人



滋賀県

【転出超過数】

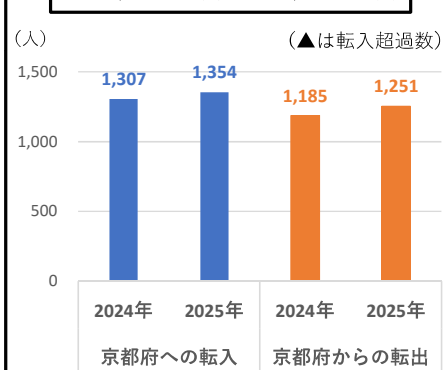
2024年：▲178人⇒2025年：▲115人



兵庫県

【転出超過数】

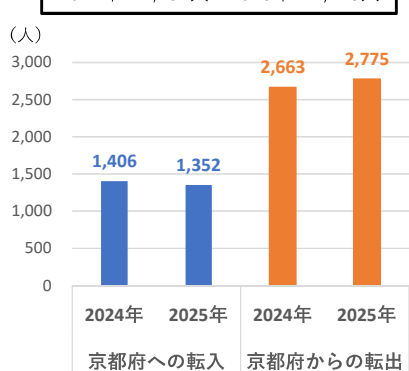
2024年：▲122人⇒2025年：▲103人



東京都

【転出超過数】

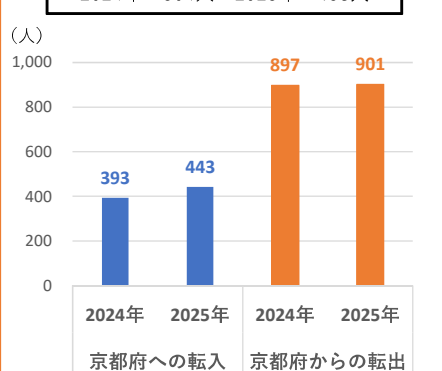
2024年：1,257人⇒2025年：1,423人



神奈川県

【転出超過数】

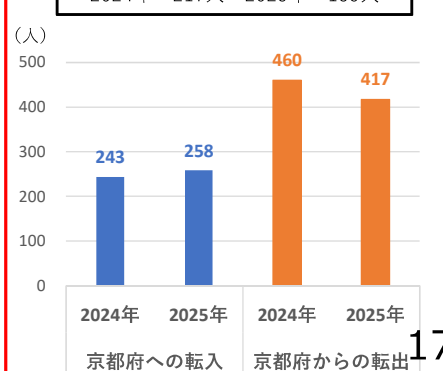
2024年：504人⇒2025年：458人



埼玉県

【転出超過数】

2024年：217人⇒2025年：159人



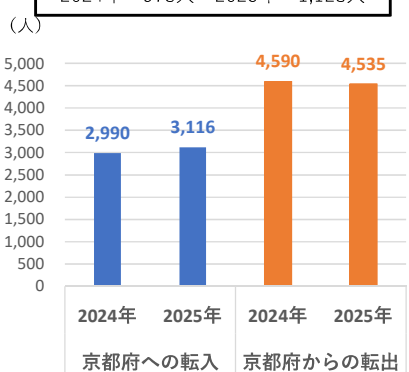
17

人口動態⑦（25～29歳の転出・転入数）

大阪府

【転出超過数】

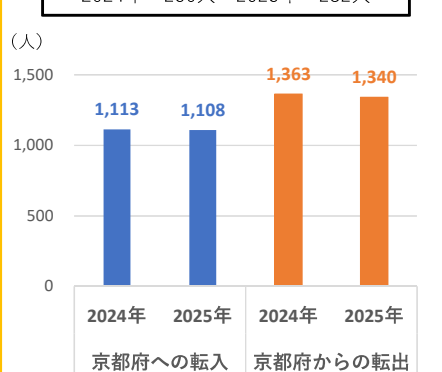
2024年：978人⇒2025年：1,128人



滋賀県

【転出超過数】

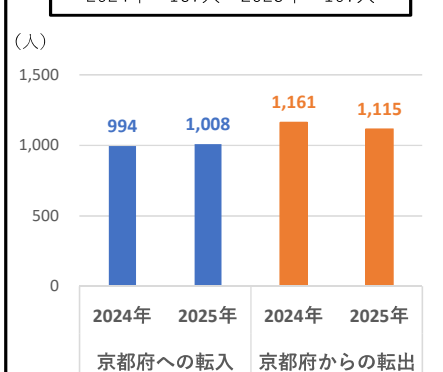
2024年：250人⇒2025年：232人



兵庫県

【転出超過数】

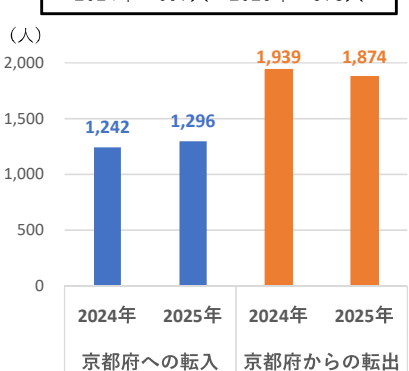
2024年：167人⇒2025年：107人



東京都

【転出超過数】

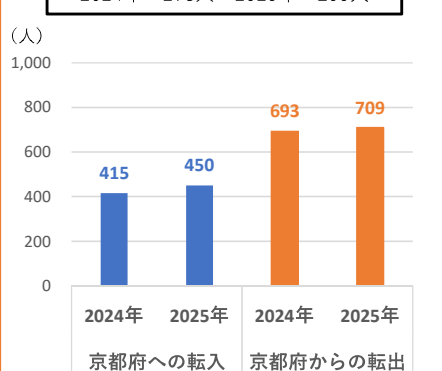
2024年：697人⇒2025年：578人



神奈川県

【転出超過数】

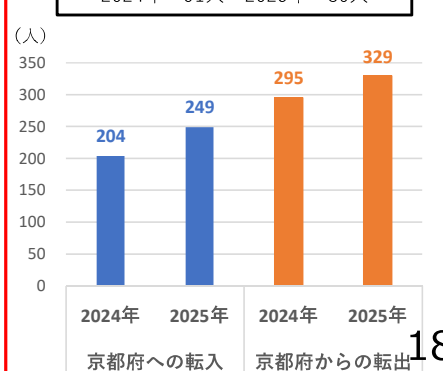
2024年：278人⇒2025年：259人



埼玉県

【転出超過数】

2024年：91人⇒2025年：80人



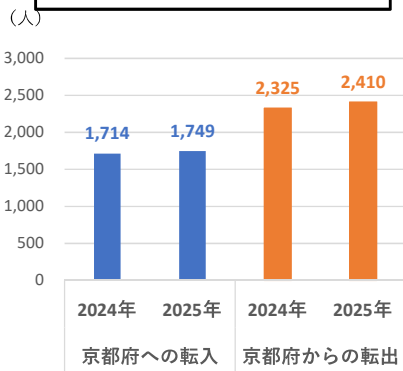
18

人口動態⑧（30～34歳の転出・転入数）

大阪府

【転出超過数】

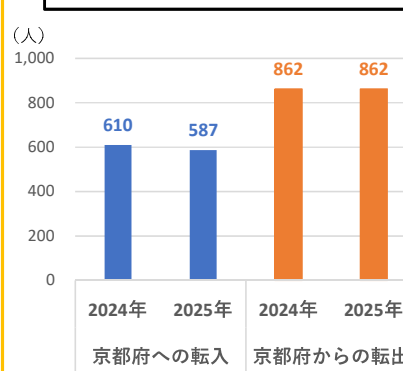
2024年：611人⇒2025年：661人



滋賀県

【転出超過数】

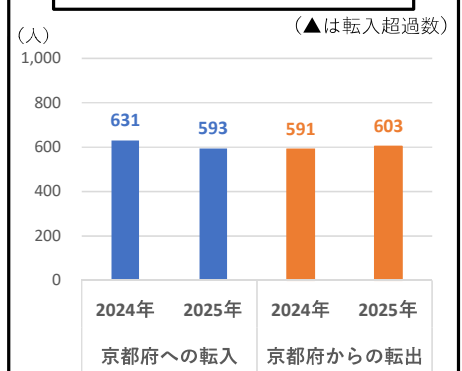
2024年：252人⇒2025年：275人



兵庫県

【転出超過数】

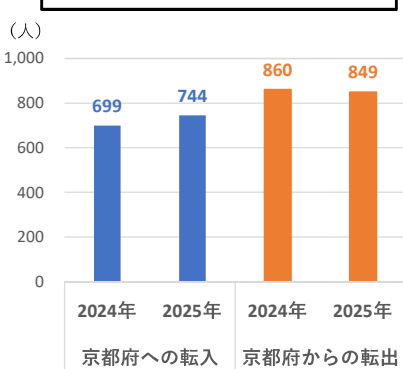
2024年：▲40人⇒2025年：10人
(▲は転入超過数)



東京都

【転出超過数】

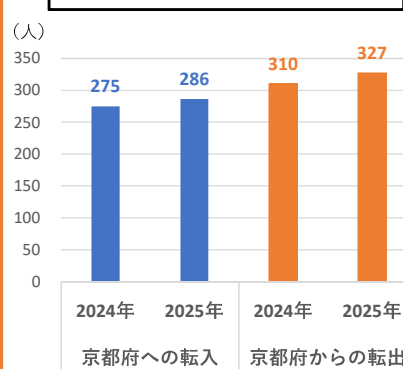
2024年：161人⇒2025年：105人



神奈川県

【転出超過数】

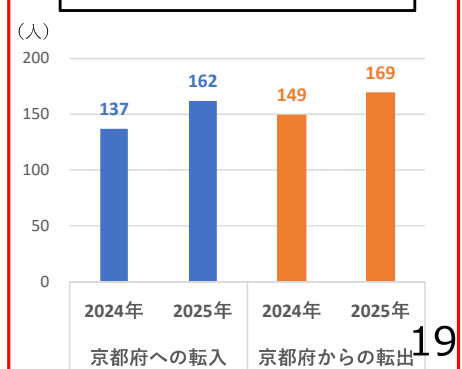
2024年：35人⇒2025年：41人



埼玉県

【転出超過数】

2024年：12人⇒2025年：7人



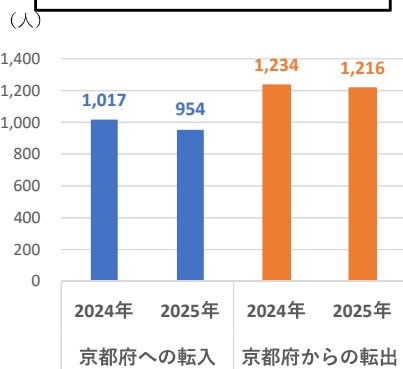
19

人口動態⑨（35～39歳の転出・転入数）

大阪府

【転出超過数】

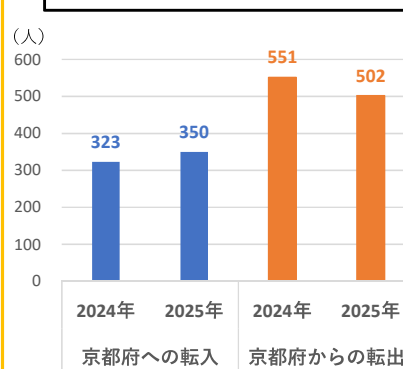
2024年：217人⇒2025年：262人



滋賀県

【転出超過数】

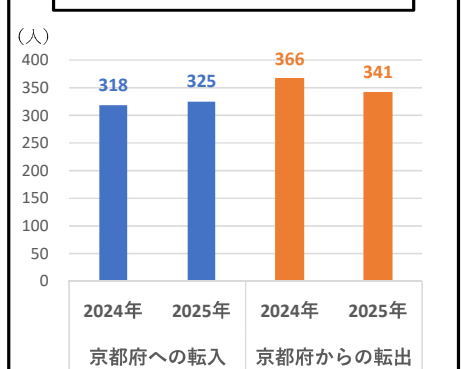
2024年：228人⇒2025年：152人



兵庫県

【転出超過数】

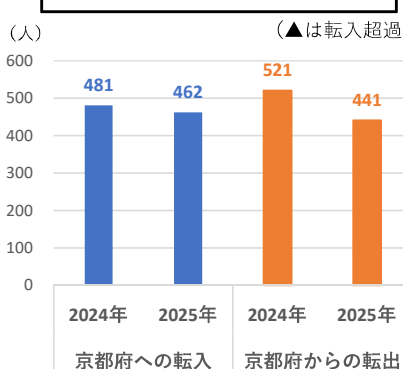
2024年：48人⇒2025年：16人



東京都

【転出超過数】

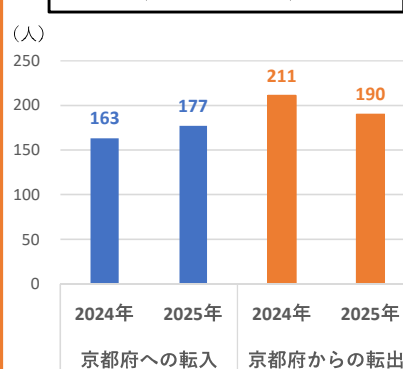
2024年：40人⇒2025年：▲21人
(▲は転入超過数)



神奈川県

【転出超過数】

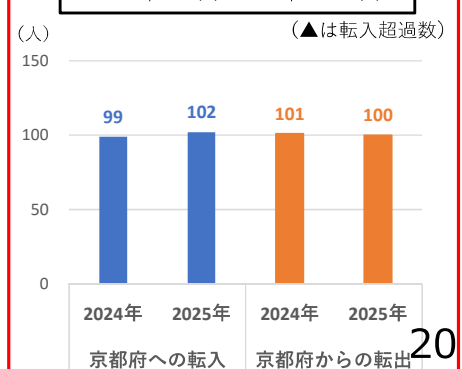
2024年：48人⇒2025年：13人



埼玉県

【転出超過数】

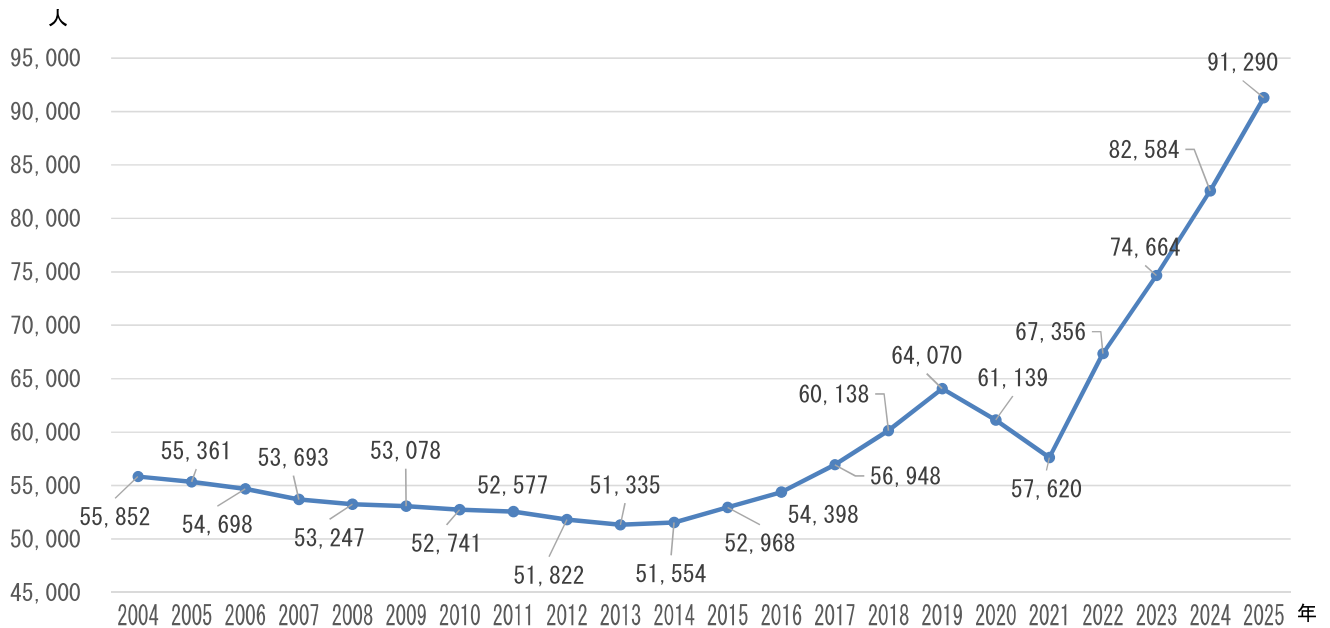
2024年：2人⇒2025年：▲2人
(▲は転入超過数)



20

府内外国人住民数の推移

- 府内の外国人住民数は**H25以降増加傾向**にあり、R2年～R3にコロナ禍等で減少したものの、R4年以降急増しており、**2025年には過去最多**となり、1～2年以内に10万人を超えると推測できる。
- 特定技能の拡充や、「育成就労」の導入により、**今後も更なる増加が見込まれる**。



出典: 京都府国際課調査

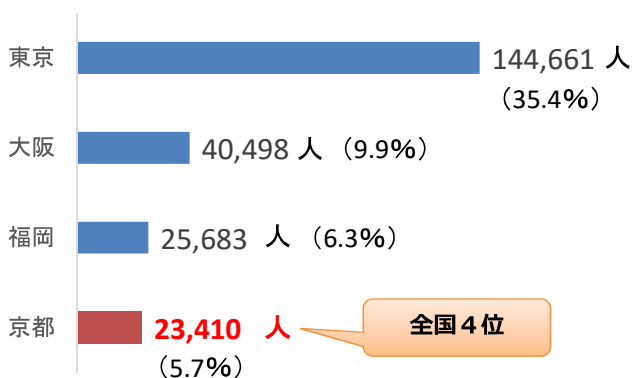
<https://www.pref.kyoto.jp/kokusai/10100005.html>

21

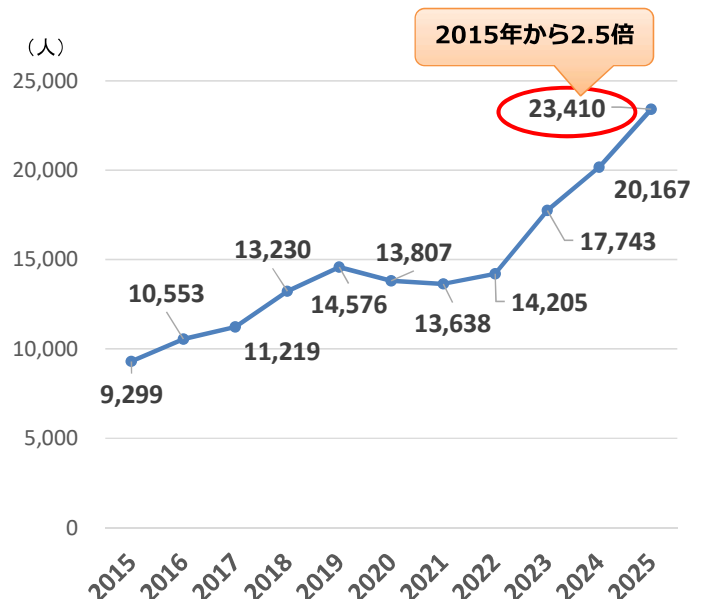
府内留学生の推移

- 京都府内の留学生数は、過去10年間で増加傾向。**2025年は全国4位の23,410人**となり、**2015年と比較すると約2.5倍に増加**している。

【都道府県別の留学生数（令和7年）】



【京都府内の留学生数の推移】



出典: 「外国人留学生在籍状況調査」(日本学生支援機構)を基に京都府が作成

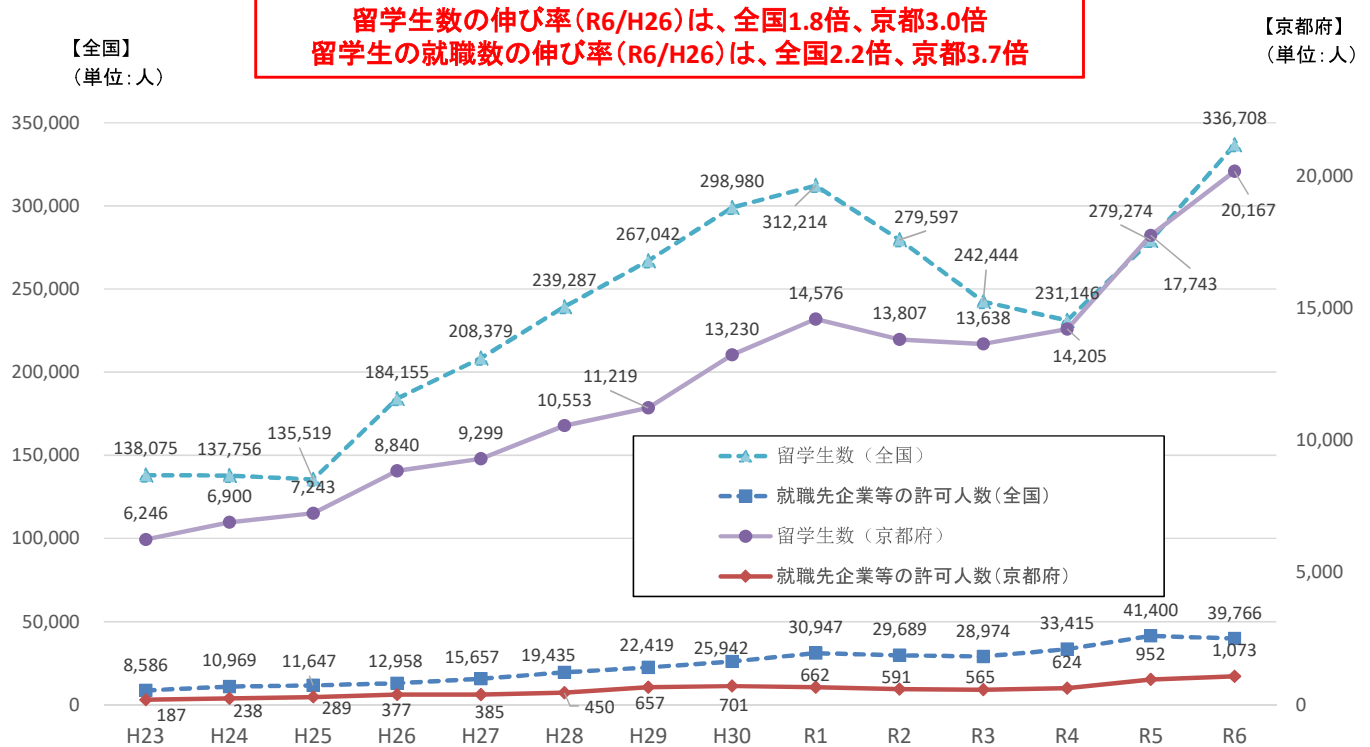
※大学の学部等が複数の都道府県に所在している場合、事務局本部が所在する都道府県にまとめた集計

URL: <https://www.studyinJapan.go.jp/ja/statistics/enrollment/>

22

府内留學生の就職率

- 京都府の留學生数の伸び率は、10年前と比べて全国を上回っており、**京都府所在企業への就職の伸び率も、全国を上回っている。**



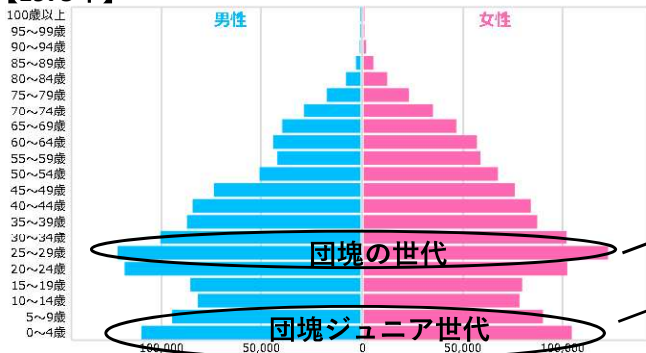
出典: ①出入国在留管理庁「留學生の日本企業等への就職状況」、②独立行政法人日本学生支援機構「外国人留學生在籍状況調査結果」をもとに作成
URL: ①https://www.moj.go.jp/isa/applications/resources/10_00013.html、②<https://www.studyinjapan.go.jp/ja/statistics/enrollment/>

23

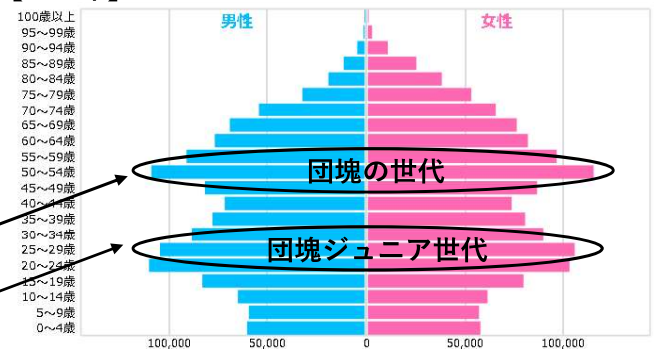
生産年齢人口の推移

- 2020年に、団塊世代(1947~49年生)が71~73歳、団塊ジュニア世代(1971~74年生)が46~49歳
- 少子化の進行とともに、**若い世代(25~39歳)の人口減少が今後しばらく続く見込み。**

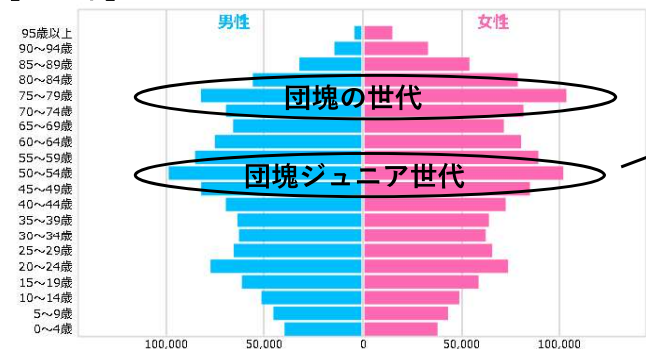
【1975年】



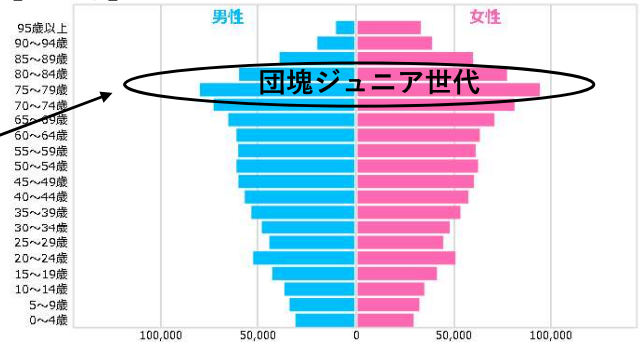
【2000年】



【2025年】



【2050年】



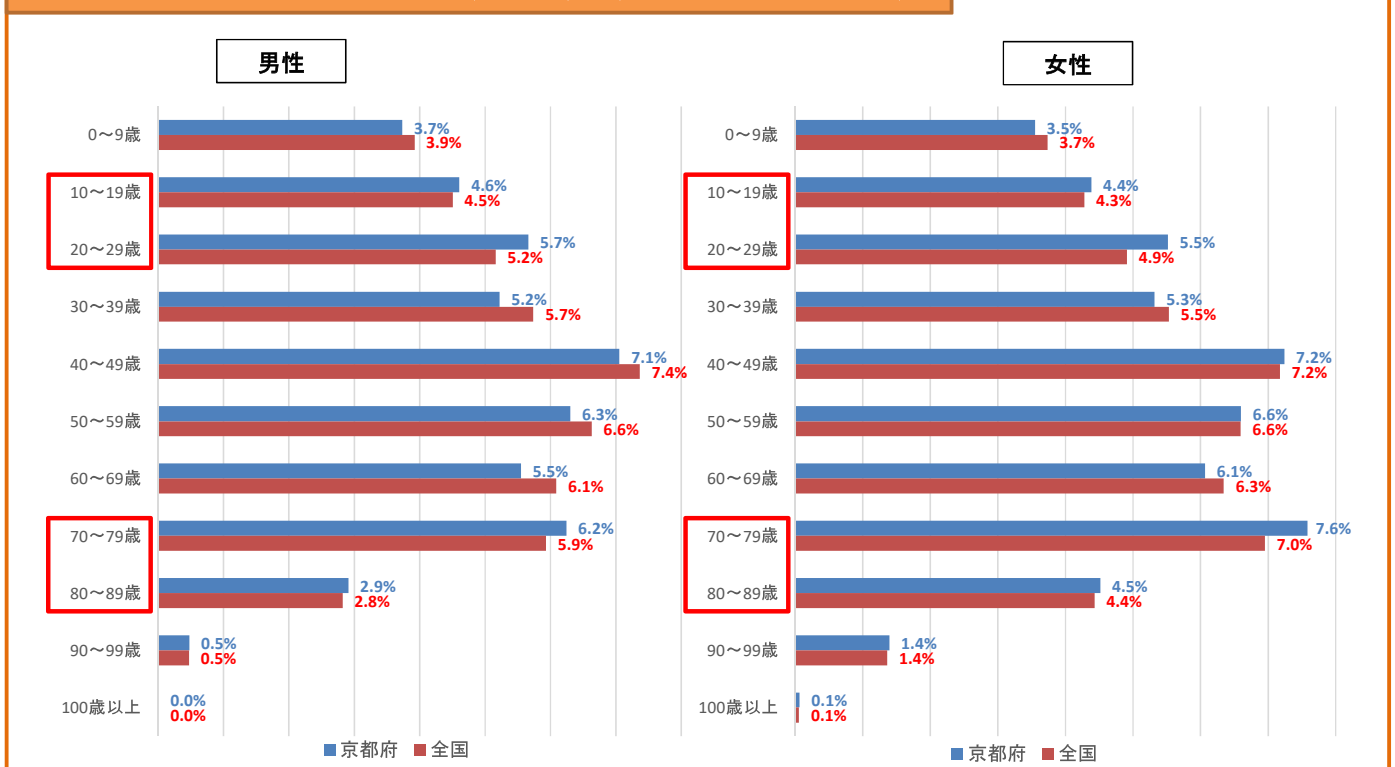
出典: 総務省「国勢調査」
URL: <https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2025/index.html>

24

京都府の基礎的データ③（年齢別の人口）

- 総人口に占める年齢別の人口について、京都府と全国で比較すると、京都府は男女ともに**10代、20代、70代、80代の人口割合が全国よりも高い**。

総人口に占める年齢別人口の割合（2020年）（京都府と全国との比較）



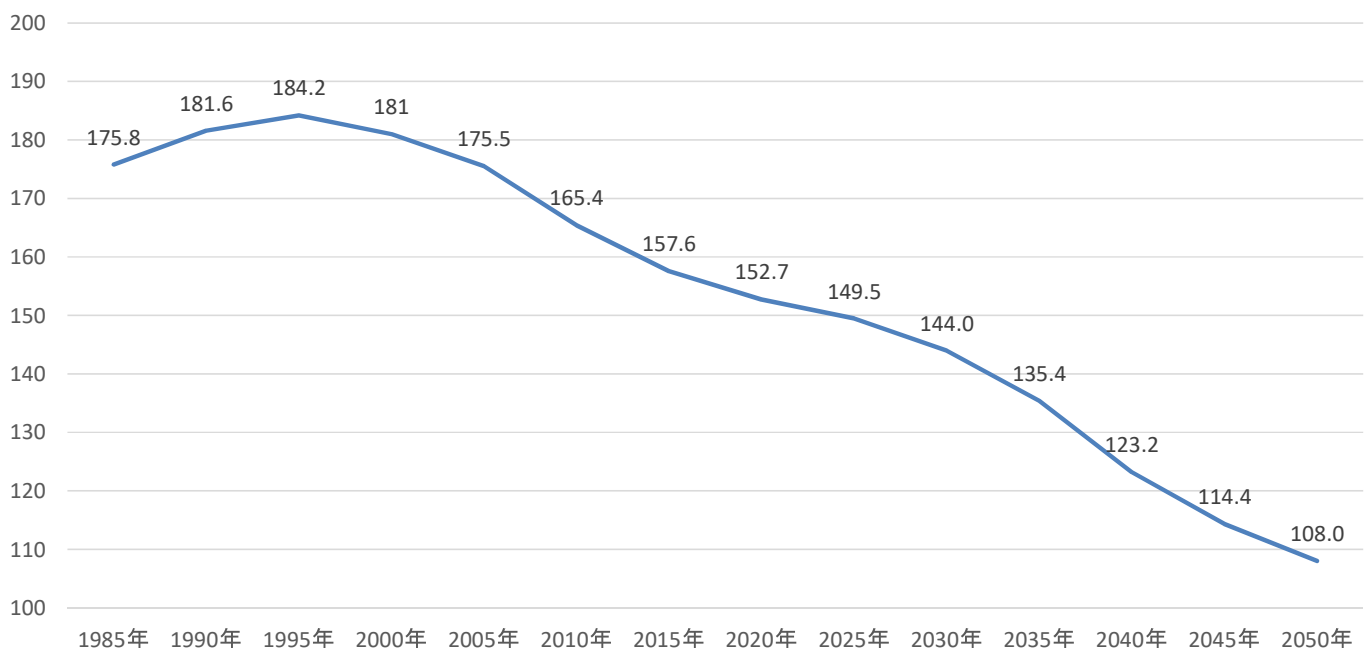
出典：総務省「令和2年国勢調査」を元に作成
URL: <https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2025/index.html>

25

生産年齢人口の将来推計

- 京都府の生産年齢人口の推移・将来推計は、1995年の184.2万人をピークに下降しており、**2025年時点では149.5万人、2050年では108.0万人（対2025年比で▲27.7%）**と推計されている。

京都府の生産年齢人口の推移・将来推計



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」(結果表2_2 年齢別人口および指数15-64歳人口)

URL: <https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson23/t-page.asp>

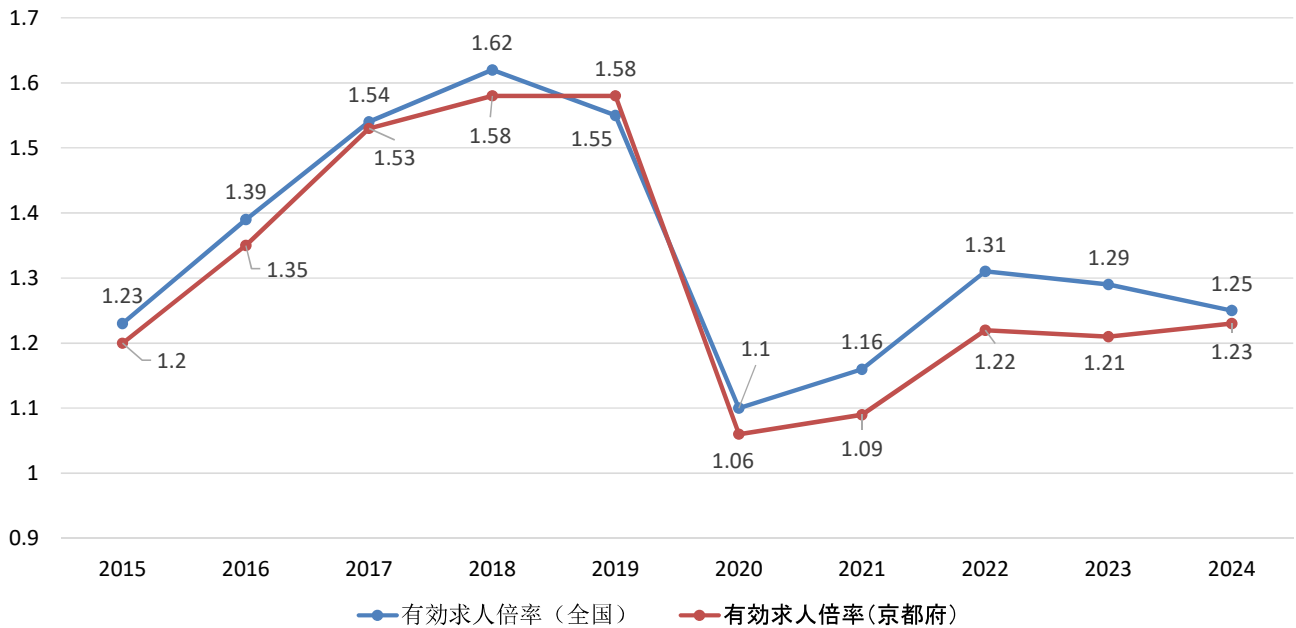
26

有効求人倍率の推移

- 全国、京都府共に2020年度に値が急減後、2019年度(コロナ禍)以前の値には未回復、回復途上
- 全国と京都府の値に大きな差は無いが、全国に対して京都府の値がやや低い状況が2015年度以降継続

単位:倍率

全国・京都府における有効求人倍率の推移



出典：令和6年度労働市場年報(厚生労働省京都労働局)

URL：https://jsite.mhlw.go.jp/kyoto-roudoukyoku/jirei_toukei/kyujin_kyushoku_00006.html

27

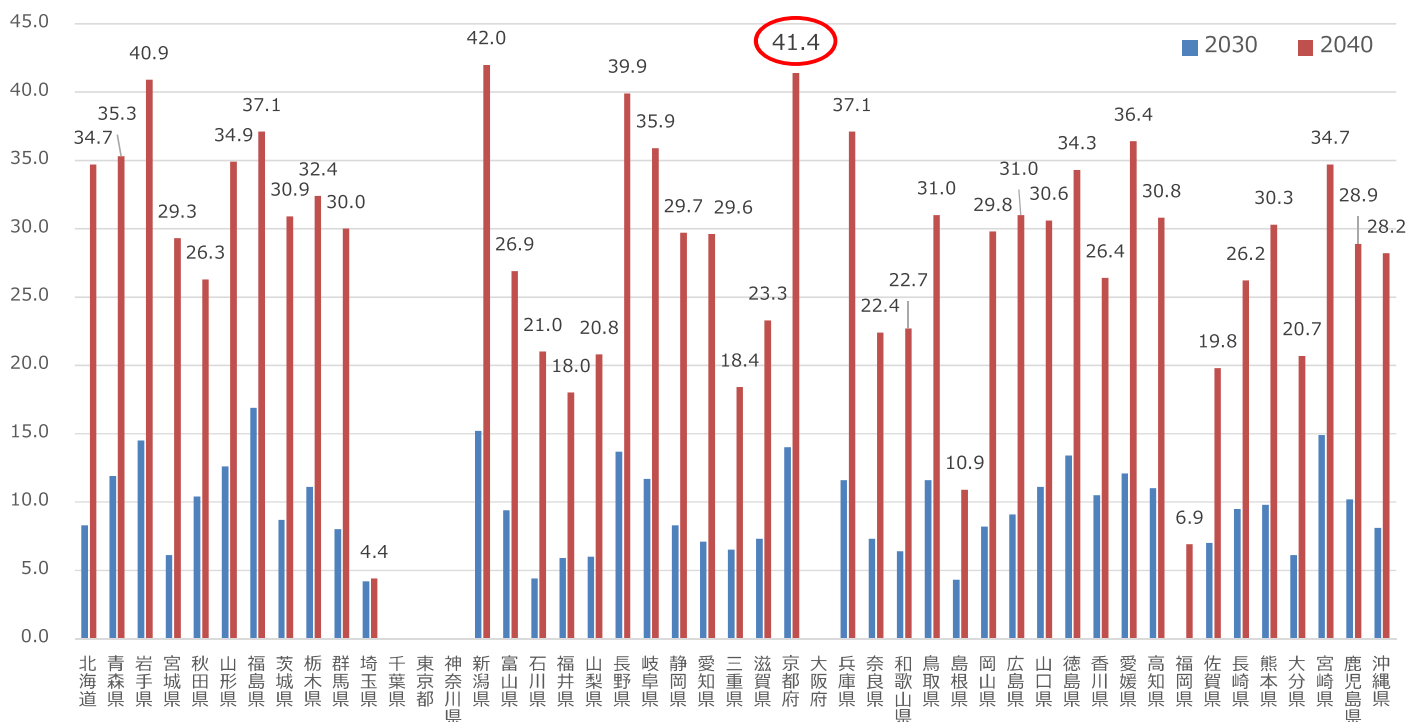
供給制約の深刻化

- 今後、多くの府県で人材不足が顕在化し、我々の日々の生活を支える「生活維持サービス（*）」従事者の不足が拡大していくことが見込まれる。

*「輸送・機械運転・運搬」「建設」「生産工程」「商品販売」「介護サービス」「接客給仕・飲食物調理」「保健医療専門職」の7職種として定義

(単位：%)

生活維持サービス（従事者）の不足率



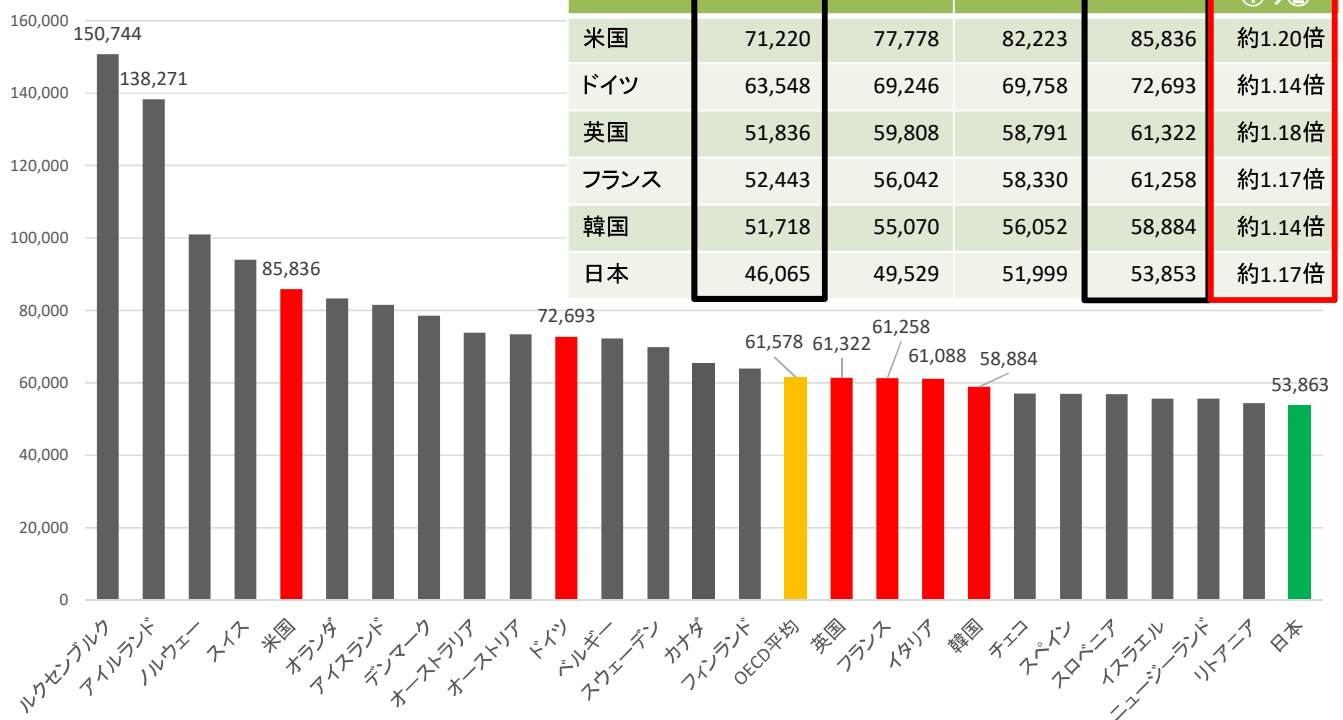
出典：リクルートワークス研究所「2040年の生活維持サービス充足率(都道府県別シミュレーション) (2023年7月25日)」を基に作成。
URL：<https://www.works-i.com/research/project/futureofwork/simulation/detail002.html>

28

国民一人当たりのGDP比較

- OECD加盟国の国民一人当たりのGDPを比較すると、**主要な先進国と比べて日本は低く位置**するが、伸び率では主要な先進国と同等の成長を遂げている。
※ GDP = 民間最終消費 + 総固定資本形成 + 政府最終消費支出 + 純輸出 を国民1人当たりで計算

単位: 購買力平価換算USドル



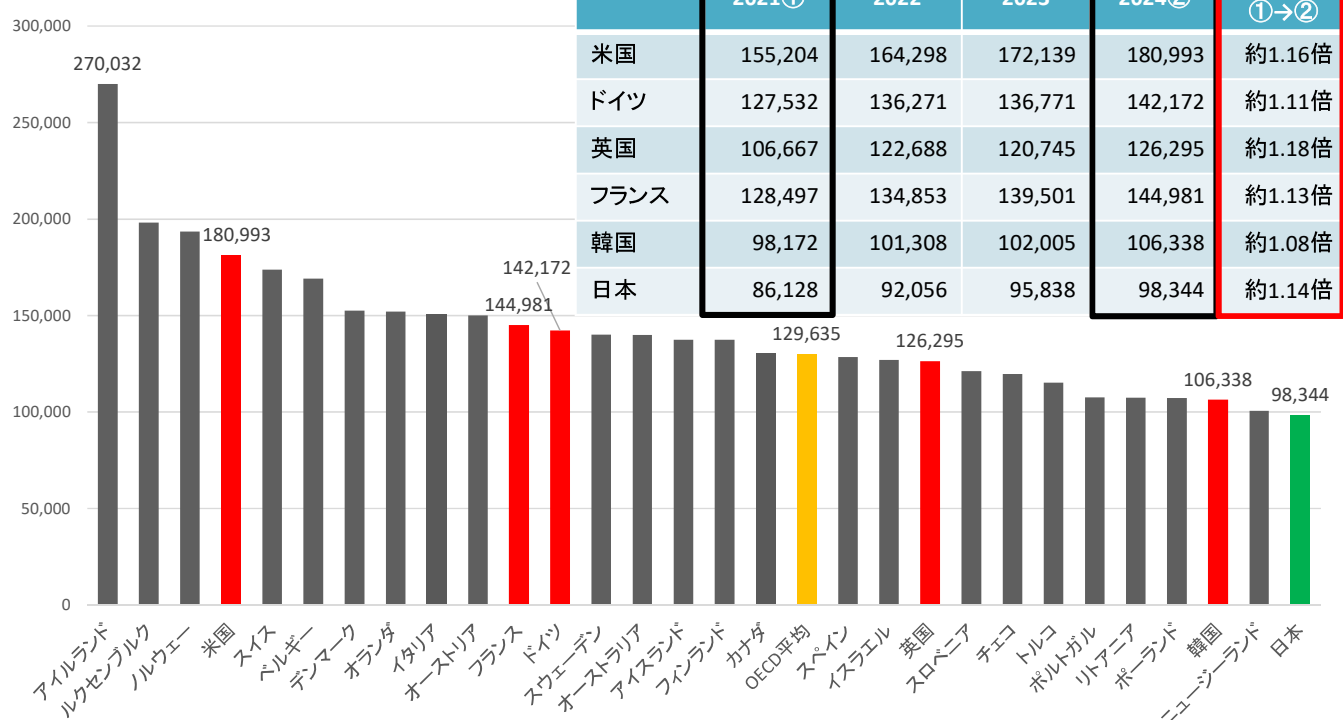
出典: 労働生産性の国際比較2025 (公益財団法人 日本生産性本部)
URL: <https://www.jpc-net.jp/research/detail/007846.html>

29

国民一人当たりの労働生産性の比較

- 国民一人当たりの労働生産性を比較すると、**主要な先進国と比べて日本は低く位置**するが、伸び率では主要な先進国と同等の成長を遂げている。
※ 労働生産性 = 成果物や付加価値 ÷ 労働投入量 を国民1人当たりで計算

単位: 購買力平価換算USドル



出典: 労働生産性の国際比較2025 (公益財団法人 日本生産性本部)
URL: <https://www.jpc-net.jp/research/detail/007846.html>

30

気候変動の見解

●世界経済フォーラム「The Global Risks Report 2026(グローバルリスク2026) (2026)

- ・ Long term (10年) のグローバルリスクの第1、2、4、7、10位の環境関係 (異常気象、生物多様性の喪失・エコシステムの崩壊、地球システムの致命的変化、天然資源不足、汚染)
- ・ TOP10の項目のうち、5項目を環境関係が占める

●PwC「Megatrends (メガトレンド) 」(2022/10)

- ・ 気候変動を四つのメガトレンドの一つに位置付け
- ・ 個人の生活費の上昇、サプライチェーンの不安定化による企業倒産や資源確保の不安定化とコスト増大等を懸念

●気象庁・文科省「日本の気候変動2025」(2025/03)

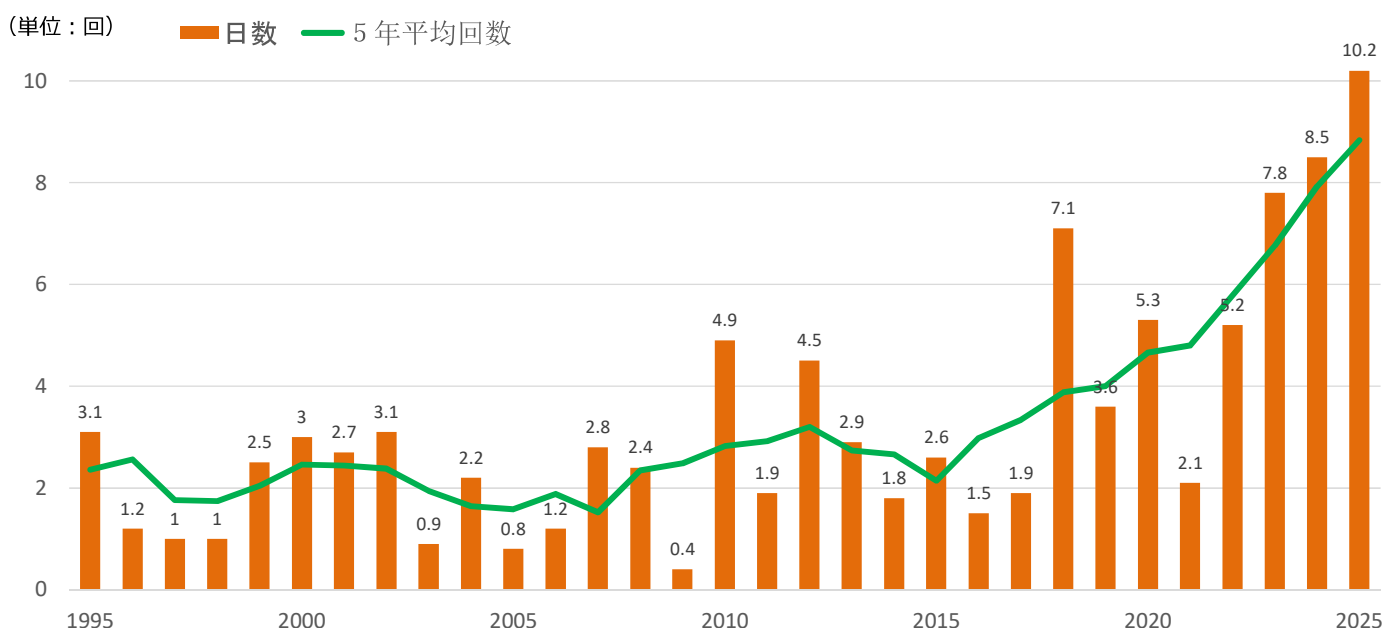
- ・ 温室効果ガスの大気中の濃度は、少なくとも過去80万年間で前例のない水準まで増加
- ・ IPCC 第6次評価報告書(2023)においては、「人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない」とされている

31

地球温暖化による平均気温の変化

- 全国的な傾向として、全国13地点の平均気温が35℃以上の猛暑日の年間日数はばらつきはあるが、5年間で平均で見ると右肩上がりに増加している。
- 最近30年間(1996~2025年)の平均年間日数(約3.2日)は、統計期間の最初の30年間(1910~1939年)の平均年間日数(約0.8日)と比べて約4.2倍に増加している。

最高気温35℃以上(猛暑日)の年間日数



出典: 気象庁「大雨や猛暑日など(極端現象)のこれまでの変化」データを基に作成

URL: https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/extreme/extreme_p.html?select_elem=max35up

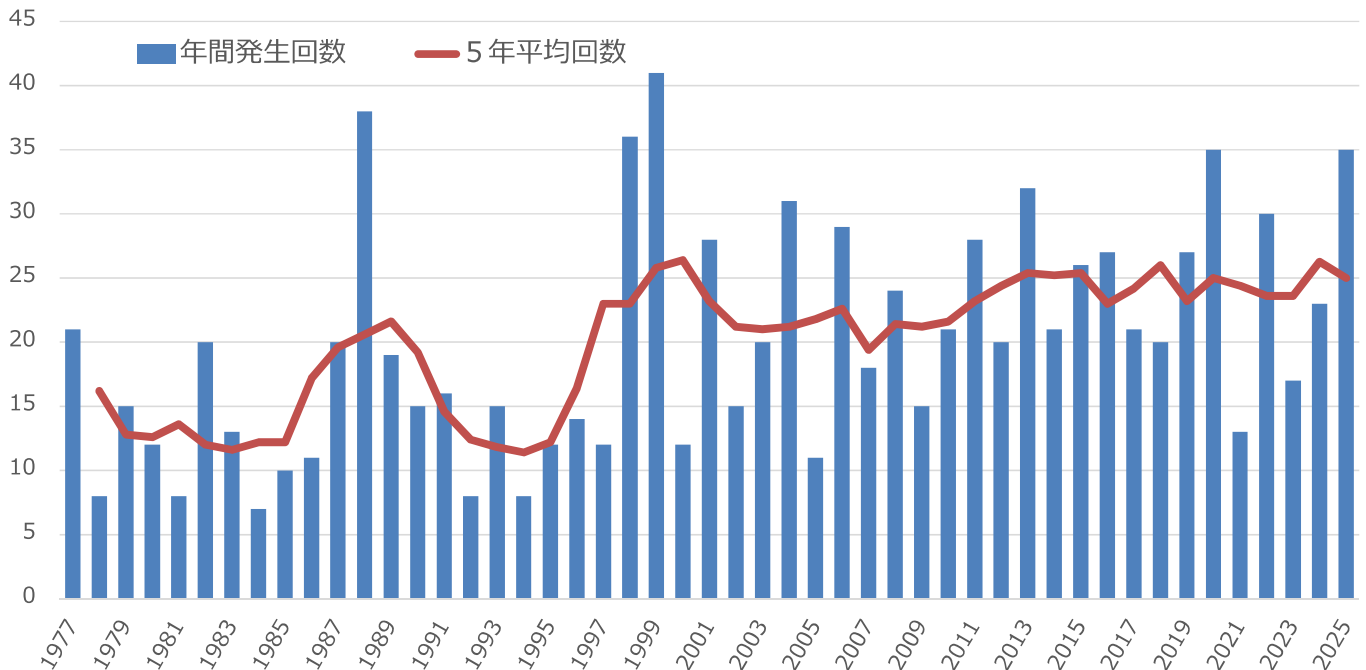
32

集中豪雨の増加

- 全国的な傾向として、**1時間降雨量80mm以上の年間発生回数年**は有意に増加。
- **最近10年間（2016～2025年）の平均年間発生回数（24.8回）**は、1977～1986年の平均年間発生回数（12.5回）と比較して**約2倍に増加**。

(単位：回)

1時間降雨量80mm以上の年間発生回数（全国）



出典：気象庁「大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化」データを基に作成
URL：https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/extreme/extreme_p.html

33

世界のAI市場規模の予測値

- 世界のAI市場規模は、2024年には361億ドルから**2030年には約10倍の3,561億ドルまで拡大**すると予測されている。



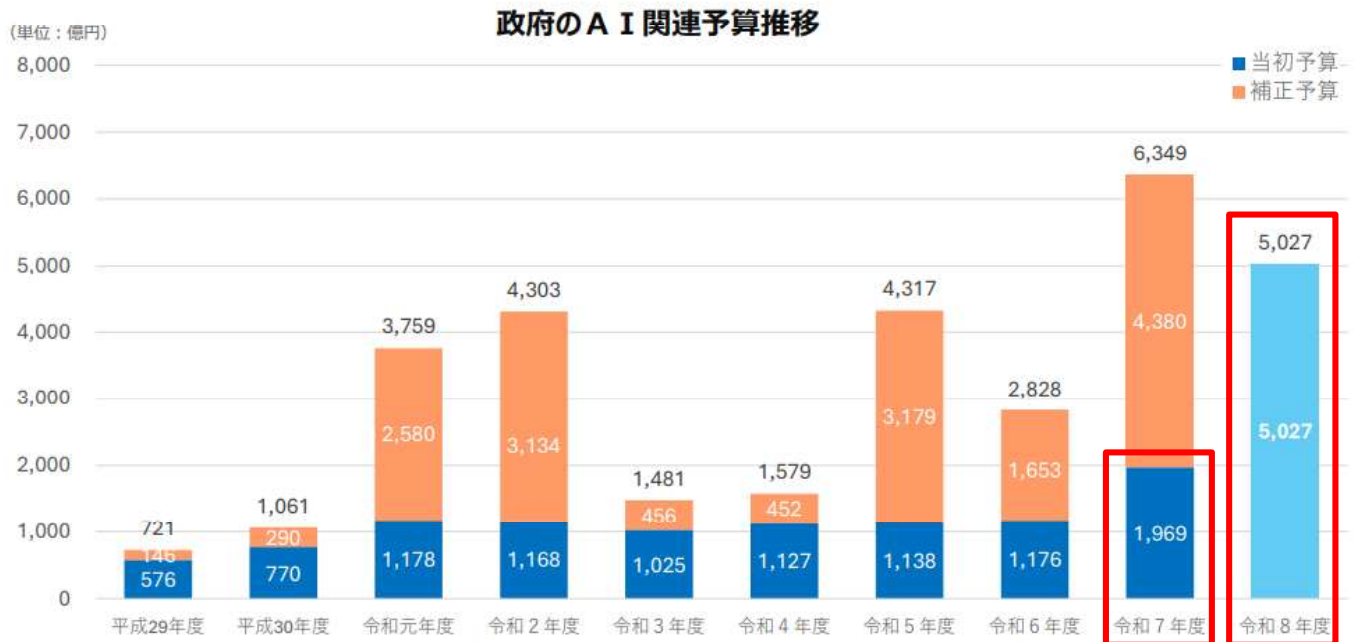
出典：総務省令和7年度情報通信白書

URL:<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/nd219100.html#f00273>

34

政府のAI関連予算の推移

- 令和8年度当初予算におけるAI関連予算の合計額は約5,027億円であり、昨年度の約2.5倍の規模となっている。
- 「AIを創る」開発力の戦略的強化に4,559億円であり、革新的なAI基盤技術の研究開発やAIロボット・フィジカルAIを見据えたマルチモーダル基盤モデルの開発などに予算が計上されている。



出典: 内閣府HP AI戦略

URL: <https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/index.html>

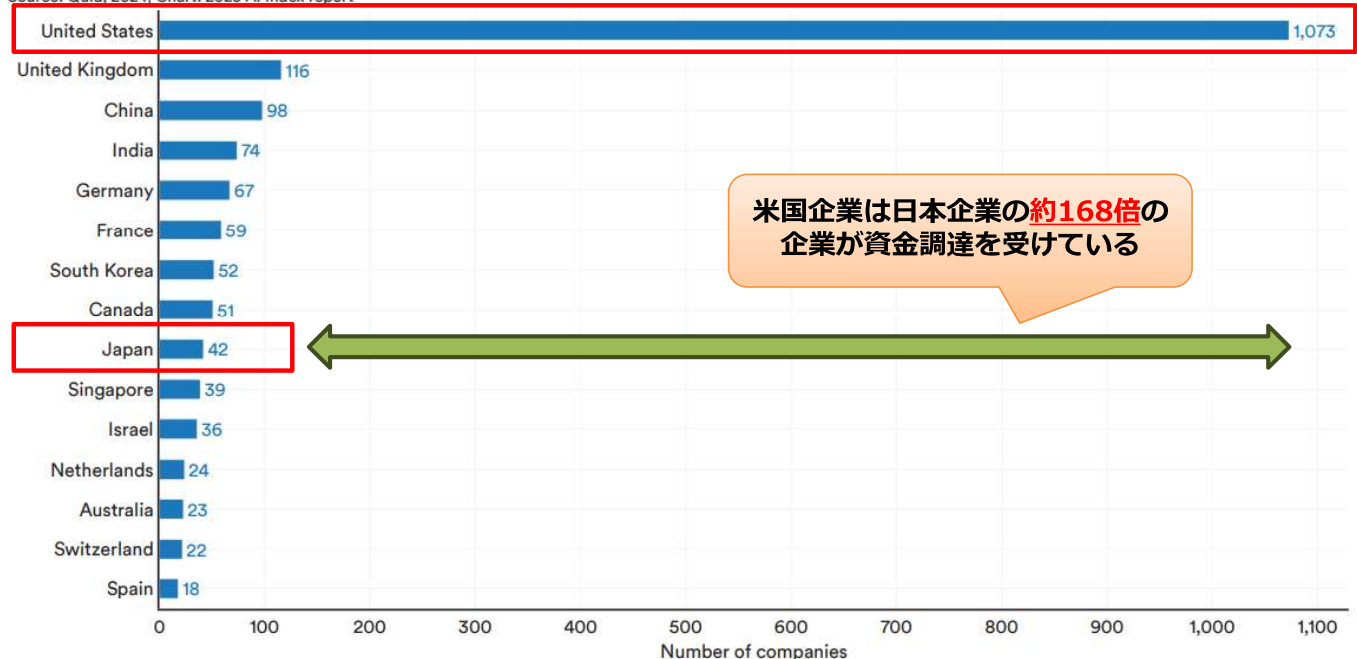
35

新たに資金調達を受けたAI企業数

- AI関連企業への投資も活発化しており、2024年に新たに資金調達を受けたAI企業数は、米国が1,073社(1位)に対し、日本が42社(9位)となっている。

Number of newly funded AI companies by geographic area, 2024

Source: Quid, 2024 | Chart: 2025 AI Index report



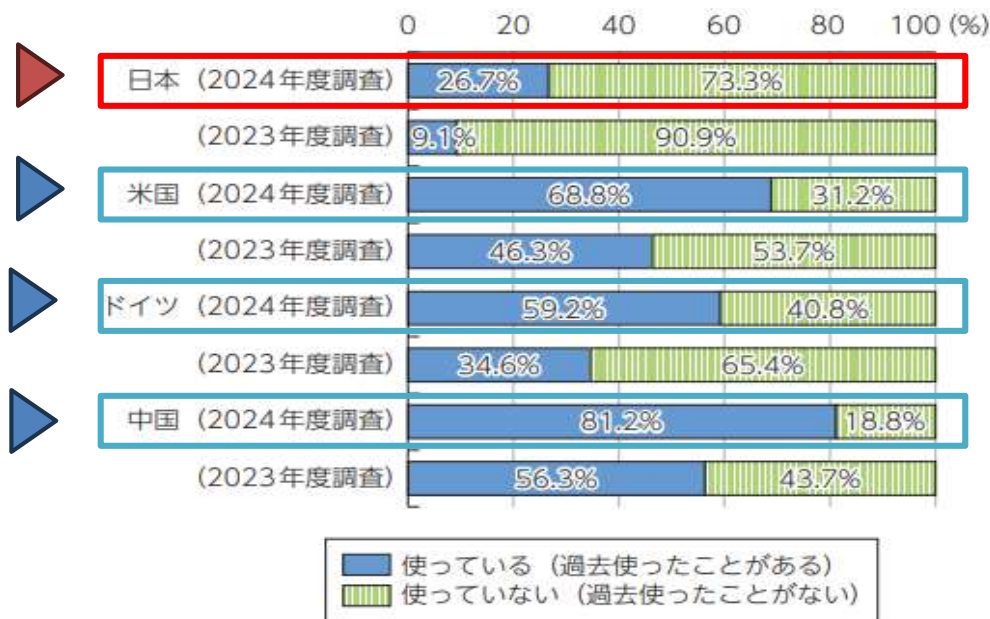
出典: 総務省令和7年度情報通信白書(スタンフォード大学が公表した報告書「Artificial Intelligence Index Report 2025」)

URL: <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/nd219100.html#f00273>

36

生成AIの利用状況

2024年度調査で生成AIを「使っている」（「過去使ったことがある」も含む）と回答した割合は中国では81.2%、米国は68.8%、ドイツは59.2%といずれも半数を超えるが、一方で**日本は26.7%と他国と比べてかなり低い**。



出典：総務省（2025）「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」

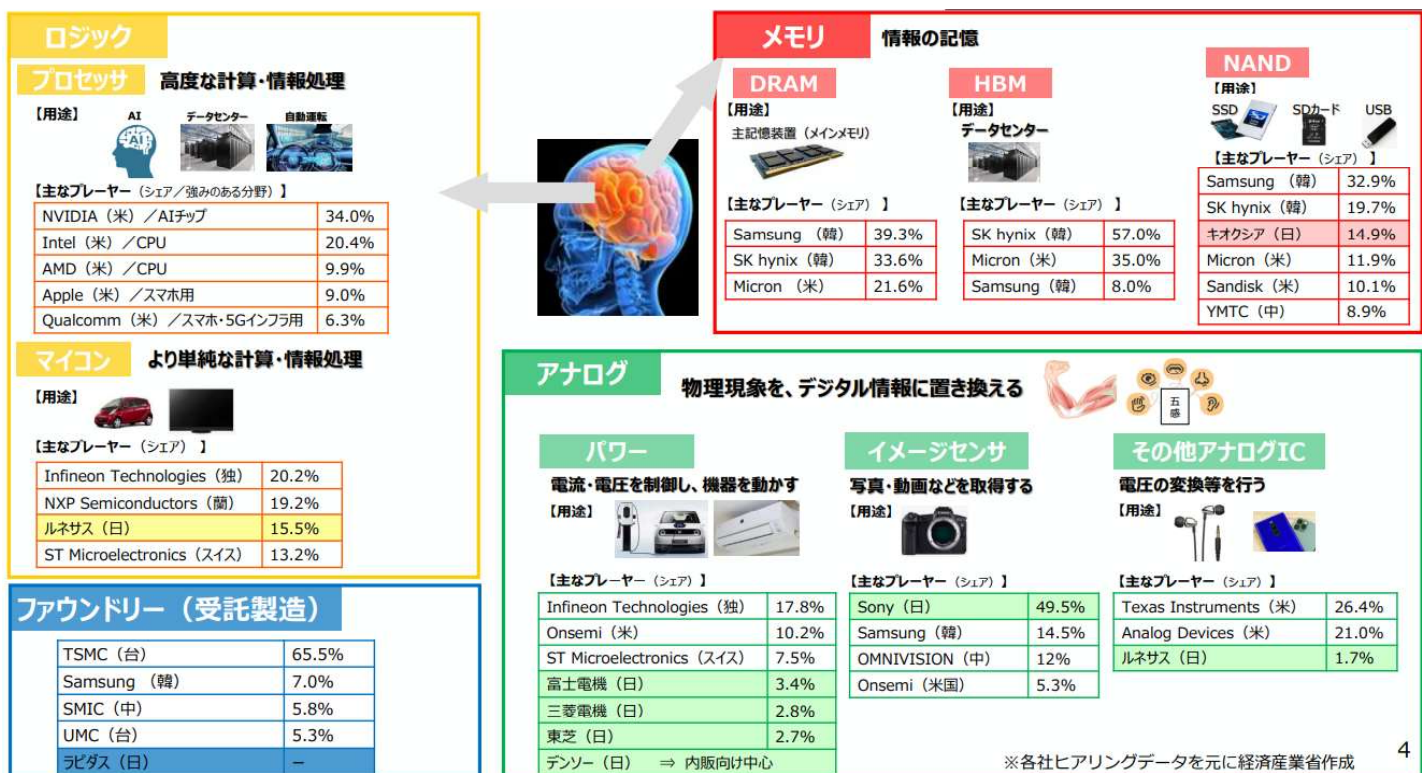
※総務省 情報通信白書 令和7年度版データ集から引用

URL：<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/pdf/index.html>

37

半導体の種類と主要企業

- プロセッサでは、全て米国企業（NVIDIAなど）が市場を独占。ファウンドリーでは台湾のTSMCが65%のシェアを誇っている。**日本は、パワー半導体等で存在感を示すが、市場規模は大きくない。**



出典：経済産業省 第14回半導体・デジタル産業戦略検討会議 資料

URL：https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/joho/conference/semicon_digital/0014/0014.html

4

38

半導体の国別シェアと各国の支援措置など

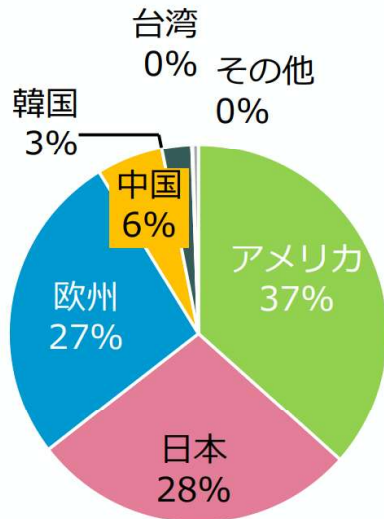
- 全体の国別シェアで見ると**日本は28%**となっているが、**日本のシェアが高い領域は相対的に市場規模が小さい装置群**であり、マーケットサイズが大きい露光装置（9割がEU）、エッチング装置（6割が米国）などでシェアを取れていない。

アメリカ（トランプ政権）

- **補助金よりも関税政策を通じた企業誘導**を重視。
- 税制優遇
 - ・ 半導体製造施設・設備等に対する**投資の税額控除を25%→35%へ拡大**。
 - ・ **初年度100%の特別減価償却を認可**。

欧州

- 政策パッケージ「欧州Chips Act」（2023年9月）
 - ・ EU域内の半導体の供給安全性・レジリエンス・技術主導権を高め、**2030年までに先端半導体の世界シェアを20%へ倍増**することを目指す。
- 3本柱のEU域内産業振興の取組推進
 - ・ 研究開発支援
 - ・ 製造設備投資支援
 - ・ 供給危機に備えた対応連携



出典：経済産業省 第14回半導体・デジタル産業戦略検討会議 資料

URL: https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/joho/conference/semicon_digital/0014/0014.html

39

ロシア・ウクライナ情勢について

●防衛省 防衛白書（2025年版）

- ・ **ウクライナ侵略は国際秩序を揺るがす重大事態**と位置付け、欧州の軍拡やNATO拡大などを踏まえ、日本の安全保障環境にも直接影響している。**米中競争やアジア情勢へも波及する「グローバルな影響」**と評価。
- ・ 中東は、世界のエネルギー供給源であり、国際通商の要衝。**日本の原油は約9割を中東に依存**している。
- ・ **中東の不安定化＝日本の安全保障・経済に直接的に影響**しており、抱えるリスクは、イスラエル・イラン対立、ガザ紛争、紅海・船舶攻撃などがある。

●経済産業省 通商白書（2025年版）

- ・ 地政学リスク（ウクライナ戦争等）により、**国際経済の不確実性が構造的に拡大**し、各国経済・企業行動に広範な影響を与えており、**「一時的ショック」ではなく「構造変化」**。
- ・ 影響としては、資源・エネルギー価格を通じたコスト増、サプライチェーン分断・再編、企業行動への影響（不確実性の増大）、貿易構造の変化（分断・ブロック化）、インフレの波及、経済安全保障の重要性の急上昇などが挙げられる。

●内閣官房 中東情勢に関する関係閣僚会議（第1回）（2026/3/24）

- ・ 中東の安定は、**エネルギー供給（エネルギー安全保障）と直結し日本に極めて重要**である。
- ・ 原油価格・供給不安は、ガソリン価格や産業活動に影響するため、**日本経済への影響は大きい**。

40

世界を魅了する京都

- 世界の多くの若者が、京都に他の地域にない独自の魅力を見出し、京都で学び、働き、暮らしている。

京都府名誉友好大使等との意見交換（令和8年5月開催）

【京都の魅力】

- ・「京都では**現代芸術**に力を入れていて、たくさんの方が勉強・経験でき気に入っている」
- ・「京都は**美しい自然**に囲まれているだけでなく、**伝統と現代が調和**している」
- ・「大学で**アート**を学んでいるが、京都には**間近でそれを実践する機会**が沢山ある」
- ・「京都の**文化**は『過去の遺物』ではなく『**今も動いているシステム**』」
- ・「沢山の観光客が訪れる中でも、喫茶店は席を増やさずゆったりと過ごせることを時間を提供しているなど、**稼ぎよりもクオリティを優先**している」
- ・「Old-ComerとNew-Comerが同じ場所・時間にいながら、それらが**共存**している」
- ・「京都は、**訪れる場所、見る観点によって見え方が変わる**ので飽きない」

【課 題】

- ・「**観光地化**が進み、**地元の雰囲気**が薄れている（観光客も観光化された観光地ではなく本当の京都を求めている）」
- ・「京都に戻って働きたいと思ったが、**外国人向けの就職機会**は東京より少ない」
- ・「首都圏に比べると京都は交流機会は豊富だが、**外国人が地域コミュニティに参加するのは大きな障壁**」
- ・「**空港からのアクセスが不便**で選ばれにくい」